

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

和仏法律学校講義録

松岡, 義正 / 鶴, 文一郎 / 掛下, 重次郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

3-30

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

63

(発行年 / Year)

1903-02-17

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3

(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可。毎月廿四日、三日、五日、六日、八日、十日、十二日、
十三日、十五日、十六日、十八日、廿日、廿一日、廿三日、廿五日、廿六日、廿七日、廿八日、廿九日、三十日)

明治三十六年二月十七日發行

三十五年度 第三學年ノ三十

和佛法律學校講義錄

號九拾五第

和佛法律學校

第三學年第三十號目次

民 法 親 族 (第ニ五七三) (元)

法律學士 鶴 丈 一 那

表紙及目次 六頁

民 法 相 繼 (第四〇九)

法律學士 拝 下 重 大 那

破 產 (第三四四)

法學士 松 岡 義 正

雜 報

○簡易訴訟手續ト通常訴訟手續○再抗理由及ヒ決定原本ト判事
ノ署名捺印○抗告裁判所ノ意義○證言拒絶事件ノ抗告當事者

090
1902
3-1-30

ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得ト而シテ如何ナルコトカ親權ノ濫用ニシテ又如何ナルコトカ著シキ不行跡ナルヤハ事實ノ問題ナレハ特定ノ事件ニ付キ考察スヘキモノニシテ法律ヲ以テ之ヲ列舉シ得ヘキモノニ非ス故ニ之ヲ以テ當然親權ノ喪失原因ト爲スヲ得ヘカラサルノミナラス父母ヲシテ其親權ヲ喪失セシムルハ事頗ル重大ナルヲ以テ裁判所ニ於テ其事實ヲ審査シ果シテ親權ノ濫用又ハ著シキ不行跡アリト認メタル場合ニ於テ宣告ニ依リ親權ヲ喪失セシムヘキモノトセリ而シテ此宣告ヲ請求スル者ハ子ノ親族又ハ檢事ニ限リ子ハ自ラ之ヲ請求スルヲ得ス是レ子トシテ親ニ對シ親權喪失ノ宣告ヲ請求スルカ如キハ倫理ノ觀念ニ反スルヲ以テナリ此親權喪失ノ裁判ヲ管轄スル裁判所ハ人事訴訟手續法第三十一條ニ依リ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノトス父カ親權喪失ノ宣告ヲ受ケタルトキハ母之ニ代リ親權ヲ行フ母モ亦親權喪失ノ宣告ヲ受ケタルトキハ後見開始スルモノトス(第八七七條第二項、第九〇〇條第一號)

第三學年第三十號目次

民 法

親

族(日文五七三)元

法務事士

監

大一郎

美

樂

及

日本及日本

六

民 法

親

族(日文五七三)元

法務事士

監

大一郎

民 法

親

族(日文五七三)元

法務事士

監

大一郎

民 法

親

族(日文五七三)元

法務事士

監

大一郎

雜報

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得ト而シテ如何ナルコトカ親權ノ濫用ニシテ又如何ナルコトカ著シキ不行跡ナルヤハ事實ノ問題ナレハ特定ノ事件ニ付キ考察スヘキモノニシテ法律ヲ以テ之ヲ列舉シ得ベキモノニ非ス故ニ之ヲ以テ當然親權ノ喪失原因ト爲スヲ得ヘカラナルノミナラス父母ヲシテ其親權ヲ喪失セシムルハ事頗ル重大ナルヲ以テ裁判所ニ於テ其事實ヲ審査シ果シテ親權ノ濫用又ハ著シキ不行跡アリト認メタル場合ニ於テ宣告ニ依リ親權ヲ喪失セシムヘキモノトセリ而シテ此宣告ヲ請求スル者ハ子ノ親族又ハ檢事ニ限リ子ハ自ラ之ヲ請求スルヲ得ス是レ子トシテ親ニ對シ親權喪失ノ宣告ヲ請求スルカ如キハ倫理ノ觀念ニ反スルヲ以テナリ此親權喪失ノ裁判ヲ管轄スル裁判所ヘ人事訴訟手續法第三十一條ニ依リ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノトス父カ親權喪失ノ宣告ヲ受ケタルトキハ後見開始スルモノトス(第八七七條第二項、第九〇〇條第一號)

以上ハ親権喪失ノ場合ナリ次ニ親権中財産管理権ノミヲ喪失スルコトアリ第
八百九十七條ニ曰ク「親権ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ
危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理権ノ喪失ヲ
宣告スルコトヲ得父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理権ハ家ニ在ル母之ヲ
行フト親権ノ濫用カ其全無ニ及ハシシテ單ニ財産ニ對スル親権行使ノ方法ヲ
誤リタルニ過キナル場合ニ於テハ必シモ親権ノ全部ヲ喪失セシムルノ必要
ナシ故ニ管理ノ失當ニ因リテ子ノ財産ヲ危クシタルトキ例ヘハ子ノ財産ヲ自
己ノ爲メニ消費シ又ハ子ノ財産ヲ以テ危險ナル商業ヲ營ミタルカ如キ場合ニ
於テハ若シ之ヲ看過セハ遂ニ子ノ財産ヲ銷盡スルノ虞アルヲ以テ其管理権ヲ
喪失スヘキモノトセリ管理権喪失ノ宣告ヲ請求スル者ハ子ノ親族又ハ檢事ニ
シテ一般ノ親権喪失ノ宣告ヲ請求スル者ト同一ナリ

父カ管理権ヲ失ヒタルトキハ母之ヲ行ヒ母カキトキ又ハ母カ之ヲ辭シタルト
キ第八八九條母カ之ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ母カ本條ノ規定ニ依リテ其
管理権ヲ失ヒタルトキハ後見人其財産ヲ管理スヘキモノトス

管理権喪失ノ宣告請求ヲ管轄スル裁判所ハ人事訴訟手續法第三十一條ノ規定
スル所ニシテ一般親権ノ喪失ノ宣告請求ヲ管轄スル裁判所ト同一ナリトス
以上ハ親権又ハ管理権喪失ニ付テノ説明ナリ而シテ此権利喪失ノ原因ハ必ス
シモ永久ナルモノニ非ス是ヲ以テ第八百九十八條ニ前二條ニ定タル原因カ
正ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失権ノ宣告ヲ取消スコ
トヲ得ト規定セリ是レニハ父母ノ名譽ノ爲メニハ子ノ利益ノ爲メ必要ナ
ルヲ以テ宣告ノ取消ヲ認メタルモノナリ而シテ此失権宣告ノ取消ヲ請求スル
者ハ本人又ハ其親族ト爲シタリ失権ノ宣告カ取消サレタルトキハ後見ハ終了
シ又失権ノ宣告ヲ受ケタル者カ父ニシテ其権利カ母ニ移リ居リタルトセハ父
ハ再ヒ親権ヲ回復スルモノトス

以上ノ失権ノ外母カ親権ヲ行フ場合ニハ財產ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ル旨ハ
第八百九十九條ノ規定スル所ナリ抑モ此財產管理権ハ親権ノ一部ニシテ権利
タルト同時ニ義務ナリトス故ニ父又ハ母タル者ハ共ニ親権ヲ辭スルコトヲ得
ルモノトス然レトモ唯例外トシテ母ハ財產ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ルエ不

トス是レ疊ニ説明シタルカ如ク女子ハ男子ニ比ズレハ財産ノ管理ニ付テハ不適當ナル場合アルコトヲ豫想シタルニ由ル監護及ヒ教育ニ付テハ母ト雖モ固ロリ其任ヲ辭スルコトヲ許ナス

第六章 後見

後見ハ未成年者ニシテ親權ヲ行フ父又ハ母ヲ有セサル場合又ハ親權ヲ行フ者カ財產管理權ヲ有セサル場合ニ於テ其未成年者ノ身體財產ヲ監督保護スル爲メ又ハ心神喪失ノ常況ニ在ルヲ以テ裁判所ノ宣告ニ因リ禁治產者ト爲リタル者ノ身體財產ヲ監督保護スル爲メ設ケラレタルモノニシテ其機關トシテハ後見人後見監督人親族會アリ尙ホ右等ノ機關ハ總テ裁判所ノ監督ヲ受タルモノトス後見ノ職務ハ固ヨリ公ノ職務ニ非ス隨テ其機關モ亦私ノ機關ニシテ國家ノ機關ニ非ス然レトモ其機關ハ公益上未成年者又ハ禁治產者ヲ保護スル爲メニ設ケラレタルモノナルヲ以テ後見人後見監督人親族會員等ト爲ルノ義務ハ法律上特定ノ理由存スルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得サルモノトス法律上

特定ノ理由トハ後見ニ付テハ第九百七條後見人ニ付テハ第九百十六條親族會員ニ付テハ第九百四十六條ニ規定セリ
未成年者ノ後見ト禁治產者ノ後見ト概乎同一ナリト雖モ全ク差異ナキニ非ス蓋シ未成年者ノ後見ハ主トシテ未成年者ヲ教養シ其身體智能ノ發育ヲ全カラシメントカ爲スナルモ禁治產者ノ後見ハ主トシテ其疾病ヲ療養看護シテ以其健康ヲ恢復セシメ又ハ之ヲシテ危險ニ陥ラサランメントカ爲メナルヲ以テナリ(第九〇七條第四號第九二二條)本款並ヒ禁治產者ニ關スル事務
以上述ヘタル未成年者及ヒ禁治產者以外ニ尙ホ法律上特別ノ保護ヲ受クヘキ規定ヲ準用スルモノトセリ
後見ハ汎ク未成年者禁治產者ノ爲メニ設ケタルモノニシテ其曰主タルト家族タルトヲ問ハサルナリ

第一節 後見ノ開始

後見開始ノ場合ニアリ即チ第九百條ニ規定シタルモノ是ナリ同様ニ依レバ後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス
第一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者カキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ
第二 禁治產ノ宣告アリタルトキ禁治產者ニ付セラル時禁治產者ニ付セラルトキ又
トアリテ後見ニ付セラル者ハ未成年者並ニ禁治產者ニ限ルモノトス準禁治
產者ハ曩ニ述ヘタルカ如ク後見ニ付セラルシテ保佐人ヲ附スルモノトス
第一 未成年者ノ後見ニ付セラルトキ又ハ親權ヲ行フ者カキトキ又
未成年者ハ親權ニ因リテ保護セラル場合多キヲ以テ必スシモ常ニ未成年者
ノ爲メ後見ノ開始アルモノニ非ス其開始セラルハ則チ親權ヲ行フヘキ父又
ハ母ノ知レサルトキ死亡シタルトキ又ハ父又ハ母カ初ヨリ子ノ家ニ在ラサル
トキ又ハ子ノ出生後其家ヲ去リタルトキ其他父又ハ母アルモ親權ヲ行フコト
能ハサルトキ例ヘハ心神喪失スルカ又ハ永ク不在ナルカ爲メ等並ニ親權ヲ行
フ者カ親權ヲ喪失スルカ又ハ財產管理權ヲ喪失シ或シ親權者カ母ニシテ財產
ノ管理ヲ辭シタルトキ等ニ於テノミ之アルモノトス而シテ親權ヲ行フ父又
母カ財產管理權ヲ喪失シ又母カ之ヲ辭シタル場合ニ於タル後見人ノ事務ハ財
產ニ關スル事項ノミニ制限セラルムモノトス(第九五五條蓋シ此場合ニ於タル
彼後見人ノ身體ニ付テハ親權者ニ於テ保護監督スルキ又以テナリハ其後ニ解
第二 禁治產者ノ後見ニ付セラルトキ又ハ親權者ノ後見ニ付セラルトキ者
禁治產者トハ第七條ノ規定ニ依リ裁判所ノ宣告ヲ受ケタル者ニシテ其後見ハ
裁判所ノ宣告ニ因リテ開始スヘキハ勿論ナリ而シテ此宣告ハ人事訴訟手續法
第五十二條ニ依リテ禁治產者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルトキ者
カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲
ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生スルモノト
ス隨テ後見ノ其宣告の效力ヲ生シタルトキニ於テ開始ス

右第一、第二ノ場合ニ於テ法定後見人及其次言後見人ハ後見開始ノ原因カ生ス

此と同時ニ後見人タクヘ者カリ故ニ其原因生シタル事例ノ知リタルキ

ハ直ナニ其職務ヲ執行スニキモノナリテニ茲モ開設ス

其意致ニ就キ、其日、其時、其處、其事由、其人又ヘ點綴ニ付キ監督人ノ管

後見小義並述ヘタルカ如ク未成年者又ヘ養治産者ヲ保護セシカ爲シニ設ケテ
タル制度ニシテ其機關四アツ第一後見人第二後見監督人第三親族會第四裁判所是ナリ恰モ法人ノ機關ニ理事臨事總會、裁判所等アルカ如シ即チ後見人ハ
未成年者又ヘ禁治産者ノ理事ナリ後見監督人ハ後見人ノ事務ヲ監督スル者ニ
シテ時ニ又之代ルヨトアリ第九五條親族會、親族其他本人又ハ其家ニ編
故アル者ノ集合體ニシテ或バ後見人及ヒ後見監督人ヲ選任シ又之ヲ監督、指揮
シテ各其任務ヲ盡サシムルヨトアリ裁判所ハ公益上右等總テノ機關ヲ監督
シテ無能力者ヲ保護スニキモノトス而シテ右機關ノ中親族會ハ單ニ後見人ハ
ミニノミ設ケラレタルモノニ非ヌシテ其他ノ場合ニ於テモ之ヲ開クヘキ必要
アルヲ以テ本節中ニ規定セシシテ別ニ一章ヲ設ケタリ又裁判所ノ後見機關ス

ル任務ニ付テハ裁判所構成法並非訟事件手續法等ノ規定アルリ以テ民法中
之ヲ規定外成人要件以故ニ本節六之四ニ分テ後見人及ヒ後見監督人ヲ付
ケノミ規定セリ機関又最易ニ取扱スル者皆監督人等亦然也テ、監督合

議に付シ機関又最易ニ取扱スル者皆監督人等亦然也テ、監督合

固ヨリ其當ヲ得タルモノニシテ又子ニ對シテ天然人愛情ヲ有スルヲ以テ法律上當然親權ヲ行フヘキ者ト定メタル父若クハ母カ其子ノ爲メニ最モ利益ト爲ルヘキ人ヲ選ヒ以テ其後事ヲ託スルハ未成年者ノ爲メニ最モ利益多カルト等ヲ以テ法律ハ之ヲ認メタリ然レトモ法律ハ親權者ヲシテ己ニ代ゼヘキ保護者ヲ指定スルヲ得セシムルニ在ルヲ以テ最後ニ親權ヲ行フ者ニ限リ此權利ヲ有スルモノトス故ニ父又ハ母カ一時親權ヲ有シタルモ之ヲ喪失シタル後ニ於アハ此權利ヲ有スルモノニ非ヌ又親權ヲ行フ父カ死亡ヤントスル場合ニ於テ母カ之ニ代リ親權ヲ行フヘキトキハ父ハ後見人ヲ指定スルノ權利ナシ而シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ或ハ父ナシカアヌ又或ハ母ナシカトモアルヘシ

以上說述シタル如ク最後親權ニ行ヒタル者ニ限り遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルト雖モ之ニ對シテ例外アリ左ノ如シ

(イ) 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セザルトキ 此場合ニ於テハ後見人ヲ指定スルノ權大何トナヒハ後見人ハ主トシテ財產人管理權ヲ爲スヘキモノナルニ後見人ヲ指定スル者ニシテ其未成年者ノ財產管理權

有セストセハ自己ノ有セザル權利ヲ他人ニ付與スルモノト謂フベク此ノ如キ

ハ法律規定ノ趣旨ニ反スレハナリハ則ハ甚子ニ及バ

(ロ) 親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタル下キハ父ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得是レハ父ハ死後母ハ親權ヲ行フト雖モ財產管理權ヲ辭シタル下キハ後見人ヲ要スルヲ以テナリ吉ミ更ニカツテ難辛親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルハ遺言ヲ以テスルトキニ限ル蓋シ後見人ノ指定ハ自己死亡後ノ爲メニスルニ非サレハ爲スヲ得ヘカラサレハナリ而シテ遺言ハ遺言ノ當時並於テ指定ノ權利アルヲ要シ且其死亡ノ當時ニ於テ其權利アルヲ要スルセ勿論ナリ若シ然ラルトキハ遺言ハ全ク其效ヲ生ヒス

(メ) 法定後見人ハ遺言ヲ要シテ後見人ハ親權者ヲ指定シ依リ定マルト雖モ禁治產者ノ後見人

ハ法律ヲ以テ先ツ之ヲ定メ法定ノ後見人ナキトキニ於テ親族會之ヲ定ムヘキ

モノトセリ。武、文、書、表、契約、遺嘱人等ヲモニテ其ノ要件並會文ニシムハ、
禁治產ノ宣告ヲ爲ス場合ハ成年者タルヲ要セス時トシテハ未成年者ニ對シ此
宣告ヲ爲スノ必要ヲ見ルコトアリ未成年者ハ親權又ハ後見ノ保護ヲ受クルヲ
以テ別ニ禁治產ノ宣告ヲ要セサルカ如シト雖モ未成年者ノ行為ハ其成年ニ達
シタル後五年ヲ經過スルトキハ最早之ヲ取消シトヲ得ス(第一二四條第一項)
第一二六條禁治產者ノ行為ハ禁治產取消ノ後其行為ヲ爲シタルコトヲ覺知シ
タル時ヨリ五年ヲ經過スルニ非サレハ其取消權ハ消滅セサル(第一二四條第二
項、第一二六條)ノ差アリ又未成年ノ間ニ禁治產ノ宣告ノ請求ヲ爲ササレハ其者
カ成年ニ達シタル後禁治產ノ宣告ヲ受タルマテ其者ハ能力者ト看做サレ保護
ヲ缺クニ至ルヘシ然レトモ未成年ノ間ニ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ成年
ニ達スルモ其宣告ノ取消サレサル間ニ禁治產者トシテ保護ヲ受タルノ利益アリ
ト而シテ此場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルカ爲
見人ト爲ルモノトス然レトモ父又ハ母ハ其子カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルカ爲
メ親權ヲ喪フモノニ非サルヲ以テ後見人ノ名稱ヲ有スルノミニシテ其實ヲ行

フコトアラサルナリ故ニ父又ハ母ハ禁治產者カ未成年ノ間ニ總テ後見人ニ關
スル規定ノ適用ヲ受クルコトナシト雖モ禁治產者カ成年ニ達シタルトキハ爾
後一般ノ後見人ト同シタ後見ニ關スル規定ヲ適用セラアルモ少く不詳
以上ハ一般ノ原則ナリト雖モ既ニ婚姻タル成年者カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタ
ルトキハ其配偶者ヲ以テ後見人トセリ蓋シ夫婦ハ共同ノ生活ヲ爲シテ互ニ相
愛シ相扶タルノ義務アルモノニシテ父母ニ比シ一層親密ノ關係アルヲ以テナ
リ然レトモ配偶者カ禁治產ノ宣告ヲ受クタ座場食ニ於テ他ノ一坊カ第九百七
條ニ依リ後見人タルコトヲ辭シ又ハ第九百八條ニ依リ後見人タルコト能ハサ
ルトキハ親權者後見人ト爲ルモノトス大抵猶此ニ無異

又夫カ未成年者ナルトキハ妻其後見人ト爲テシシテ親權者其後見人ト爲ル是
レ他ナシ子カ未成年ナルトキハ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ父又ハ母
カ親權ヲ行スベキモノナレハ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テモ親權者カ
後見人ト爲リ之ヲ保護スルヲ相當トシタルモオルヘシ之ニ反シ妻カ未成年
ナルトキハ之ニ對シ親權ヲ行フヘキ者アル場合ト雖モ夫ヲ以テ後見人ト爲ル

是レ夫ハ妻ニ對シ親権ヲ有シ其行為ヲ許否スヘキ場合多ク又通常夫ハ妻ノ財産ヲ管理スルノ權（第八〇一條）ヲ有スルヲ以テ假令夫カ後見人タルシテ親権者カ後見ヲ爲スモノトスルモ實際親権者カ管理スヘキ財產ナキコト多カルヘク特ニ夫ハ永ク妻ノ後見人タルヘキ事ノナルヲ以テ此場合ニ於テ夫ヲ信キ親権者ヲ其後見人ト爲スヲ適當ト認メサリシニ因ルヘシ。問答其餘見人ハ後見者

（口）一戸主第九〇三條舊民法人事編第一六六條第二二四條第三項
未成年者ノ後見人ハ遺言ヲ以テ指定スルヲ得ベシ又營治產者ノ後見人ハ法律ヲ以テ定メタルコト前ニ述ヘタル所ノ如シ然ル。此兩者ニ付キ如上ノ後見人アラサルトキニ於テ其無能力者カ家族ナルトキハ戸主ヲ以テ其後見人ト爲ス然レトモ戸主カ未成年者ナルトキハ後見人ト爲ルヲ得ス（第九〇八條第一號）此場合ニ於テ戸主ニ對シ親権ヲ行フ者又ハ其後見人カ第八百九十五條ニハ第九百三十四條ニ從ヒ戸主ニ代リ當然其家族ニ對シ後見人ノ職務ヲ行フヲ得ヘキヤ如何是レ或ハ一ノ疑問ナルヘシ然レトモ第八百九十五條ニハ親権ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子三代ヲアリテ戸主權及七親権ヲ行フタア文第九百

三十四條ニハ「被後見人カ戸主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其権利ヲ行フ云云トアリテ親権者又ハ後見人カ戸主ニ代ハリテ戸主權ヲ行フコトハ明白ナリト雖モ戸主カ其家族ノ後見人ト爲ベシ第九百三條舊民法律ノ規定ニ依ル者ニシテ當然戸主權中ニ包含スルノ一権利上譲弗得ナムハ結果シテ然ラハ此場合ニ於テハ家族ノ爲メ別ニ後見人ヌ選任スルノ要アルヘシ。」
(三)一親族會人選任ニ係ル後見人（第九〇四條舊民法人事編第一六七條、第二二四條第四項）眞理大藏武百五十九號卷之二八二期主張實業圖書社編著者大二翁著者遺言後見人又ハ法定後見人ナキトキ又ハ之アルモ第九百七條ノ規定ニ依リテ其後見人カ正當ニ後見ヲ解シタルカ又ハ第九百八條ニ依リテ後見人タルノ資格大キ場合ニ於テハ親族會ニ於テ之ヲ選任スルキモナリ之ニ付キ外國ニハ裁判所カ選任スヘキモノトスル立法例亦キ非矣トモ我國ノ如キニ一家之内事ニ裁判所看干渉ヲ受クタル久如製造一般人情相厭不所ナルヲ以テ親族會人選任スルノ爲シ然リ又ハ當文ニ勝残會を變ヒ候ハ察武百五十九號卷之二八二期主張實業圖書社編著者大二翁著者

後見人ヲ選任スル爲メニ親族會ヲ要スルハ第九百五條ニ記載セル者カ後見ノ任務ヲ辭スルガ又ハ其資格ヲ失ヒタルト事ニ該此場合ニ於テハ此等ノ者ハ遜讓ナム親族會ヲ招集スベク又或其招集ヲ裁判所等請求スヘキモノ而シ其場合ハ(一)親權ヲ行ス母カ財產の管理ヲ辭表タルトキ(二)後見人が其任務ス辭シタルトキ(三)親權ヲ行セタ父又ハ母が其家ヲ去リタルトキ(四)後見人タル戸主ガ隣居ヲ爲シタルト者はナリ又ハ親族百人前と居モモ遜見人及ハく賃第二後見人ノ賃數當是人を准モ之ハ亦可也此時賃武百日利賃或支利賃也後見人ノ員數ハ第九百六條ニ於テ一人ニ限定セリ舊民法人事編第一六二條第(二)二六條其理由ハ蓋シ後見人カ數人アリ時某ハ或ハ時某意見ノ衝突アリ來ス謂トアルベタ隨未被後見人ノ不利ト爲ル事キヲ慮リタルモノナルヘシ然レトモ後見ノ事務多トギ由一人ヲ後見人ニ付託其繁ニ堪ヘナルカ如某ヨドガシト云ヘカラス此ヲ如キの場合ニ於テハ第九百二十六條ノ規定並從ヒ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財產管理者ヲ使用スルヨリアリ得ベシ既主附是詳セビイハ明白セリ第三國後見人ヲ辭任人モ民主文也モ夫モ餘員人ヘモ子外ハモ大其財産也

後見人ハ原則トシテ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス唯例外トシテ第九百七條ノ事由アル場合ニ限リ其辭任ヲ許スヘキモノトセリ今左ニ之ヲ分説セシ

- (一) 婦女ナルコト、婦女ハ財產管理ノ任務ニ堪ヘタル者多キヲ以テ親權ヲ行使場合ニ於テモ財產ノ管理權ヲ辭スルコトヲ得セシム之ト同一理由ニ據リ後見ノ任務モ亦之ヲ辭スルコト
- (二) 軍人トシテ現役ニ服スルコト、現役軍人ハ嚴格ナル軍務ニ從事スルモノナレハ後見ノ任務ヲ適當ニ盡スコト能ハサル場合多シトス若シ後見ノ任務ヲ適當ニ盡サシメンカ軍人ノ職務ニ忠實ナルコト能ハス是ヲ以テ此ノ如キ者ヲ後見人タラシムルハ公益上不得策ニシテ又被後見人ノ不利益ナリ故ニ軍人ハ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ルモノトセリ
- (三) 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコトハ公務ニ從事スル者ハ其地ヲ離ルルコト能ハス故ニ遠隔ノ地ニ住シテ公務ニ從事スル者ハ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ルモノトセリミテ此ノ如キ者ハ
- (四) 自己ヨリ先ニ後見人タルベキ者ニ付キ第九百七條又ハ第九百八條ニ掲グ

タル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由ヲ消滅シタルコト、遺言又ハ法定ノ後見人タルヘキ者アルモ第九百七條ノ規定ニ依リテ後見ノ任ヲ辭シ又ハ第九百八條ニ依リテ無資格ナル場合ニ於テハ其以外ノ者ヲシテ後見人タラシメタルヘカラス然レトモ其後ニ至リ此等ノ理由ヲ消滅シタル場合ニ於テハ現ニ後見人タル者ハ此等ノ者ニ其任ヲ譲リテ自ラ辭任スルコトヲ得蓋シ現任ノ後見人ハ指定又ハ法定ノ後見人ニ非シテ已ムヲ得サル場合ニ後見人ト爲レル者ナレハ當然後見人タルヘキ者アルトキハ之ニ任務ヲ譲ルコトヲ得ヘキハ當然ノ事ナレハナリ

(五) 禁治產者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト、未成年者ニ對スル後見人ノ任務ハ二十年ヲ超ユルコトナク且多クノ場合ニ於テ初ハ親權者アリテ之ヲ保護スルヲ以テ二十年ノ後見人ハ寧ロ稀ナリトス之ニ反シ禁治產ハ一定ノ期間ナク隨テ後見人ハ其任務終了ノ時期ヲ知ルコト能ハサルモノナリ殊ニ後見人ハ通常無報酬ニテ其任務ニ服スルモノナルニ之ヲシテ十年以上ニ亘リテ其任務ヲ盡サシムル如キハ酷ニ失スルヲ以テ十年ヲ經タルトキハ後見ノ任ヲ當ナルヲ以テナリ

(六) 此他正當ノ事由、以上ニ列記シタル以外一切ノ事由ヲ包含スルモノナリテル地位ニ在ルモノナルカ故ニ自ラ辭任シテ他人ヲシテ之ニ代ラシムルハ不當ナルヲ以テナリ

例ヘハ疾病、公務等ノ如キ是ナリ要スルニ事實ノ問題ナレハ争ラ生スルトキハ一一裁判所ノ判断ヲ俟タルヘカラス

第四 後見人タルコトヲ得サル者(第九〇八條舊民法人事編第一八〇條第一八一條第一八二條第二二六條)

第九百八條ニハ左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス(下シテ八箇ノ場合ヲ列舉セリ要スルニ此等ノ者ヲシテ後見人タラシムルハ無能力者ノ爲メ不利益ナリト認メタルヲ以テナリ故ニ此等ノ者ハ新ニ後見人タルコトヲ得サルノミナラス既ニ後見人ト爲レル場合ニ於テモ其事由ヲ生シタルトキハ後見人タルノ資格ヲ失フヘキモノトス左ニ之ヲ分説スヘシ

- (一) 未成年者 未成年者ハ自ラ後見ニ服スル者ナレハ他人ノ後見人タルコト
ヲ得ナルハ勿論ナリ
- (二) 禁治產者及ヒ準禁治產者 未成年者ノ場合ト同一ナリ
- (三) 剝奪公權者及ヒ停止公權者 刑法第三十二條、第三十三條ニ依リ公權ヲ剝
奪又ハ停止セラレタル者ニシテ此等ノ者ハ刑法第三十一條第七號ニ依リテ後
見人タルコトヲ得サル者ナリ畢竟此ノ如キ者ヲシテ後見人タラシムルコトハ
被後見人ノ不利益ナルノミナラス法律ハ此ノ如キ者ニ此名譽ノ職ニ就クコト
ヲ許ナサルナリ茲ニ一言注意スヘキハ刑法第三十一條第七號但書ニ「親屬ノ許
可ヲ得テ子孫ノ爲ニミスルハ此限ニ在ラストアモ民法第九百八條第三號ニ
ハ之ヲ認メサルカ故ニ此但書ノ規定ハ民法ノ規定ニ由リテ改メラレタルモノ
ト解セサルヘカラス

- (四) 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人 例ヘハ親權者後見
人不在者ノ財產管理人、理事、清算人相續人欠缺ノ場合ノ財產管理人、遺言執行人
等カ不適任トシテ裁判所ニ於テ免職セラレタルカ如キ是ナリ法文ニハ明カニ

- 裁判所ト云ヘルカ故ニ親族會ヨリ免職セラレタル者(第九一一條第一項、第九一
七條第三項、第九一九條第三項)ハ包含セサルナリ
- (五) 破產者 破產者ハ信用ナキ者ナレハ之ヲ後見人タルシムルハ被後見人ノ
不利益トスル所ナルカ故ナリ民法施行法第二條ニ「民法ニ於テ破產者ト稱スル
ハ民事ニ付テハ家資分散者ヲ謂フ」トアリ又其第三條ニ「身代限ノ處分ヲ受ケタ
ル者ハ其債務ヲ完済スルマテハ之ヲ破產者ト看做ズ」トアルヲ以テ茲ニ謂フ所
ノ破產者トハ商事ニ於ケル破產者ノミヲ謂フニ非スシテ家資分散者及ヒ身代
限ノ處分ヲ受ケタル者ヲ包含スルモノナリ
- (六) 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
此等ノ者及ヒ其配偶者並ニ直系血族ノ如キハ被後見人ノ利益ヲ圖ラシムルニ
不適當ナルヲ以テナリ
- (七) 行方ノ知レサル者 行方ノ知レサル者ノ後見人タルニ不適當ナルコト
ヲ俟タス
- (八) 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡ア

リト認メタル者 是レ第四號ノ規定ト同一趣旨ニシテ後見人タルニ適セサル者ナレハナリ唯第四ノ場合ト異ナル所ハ此場合ハ現ニ後見人タル者カ其任務ニ堪ヘサル場合ニシテ第四ノ場合ハ嘗テ法定代理人又ハ保佐人タリシ者カ既ニ免職セラレタル後ニ於テ更ニ後見人タルコトヲ得スト爲シタルニ在リトス

第五 保佐人第九〇九條 本章ハ後見ニ付テノ規定ナルニ保佐人ニ關スル規定ヲ爲シタルハ全々便宜ノ爲メニ外ナラス元來保佐人ハ準禁治產者ニ付テ存スル者ナレハ後見人トハ同一視スヘキモノニ非スト雖モ其性質ニ於テ相類似スルカ故ニ保佐人ニ付テハ便宜上後見ニ關スル第九百二條乃至第九百八條ノ規定ヲ準用スルコトセリ
(第九〇九條) 保佐人ト準禁治產者トノ利益相反スルヨトアリ又ハ保佐人カ代理權ヲ有スル第三者ト準禁治產者トノ利益相反スルコトアリ此ノ如き場合ニ於テモ尙ホ保佐人ノ同意ヲ得サルヘカラナルモノトスルハ準禁治產者ノ爲メニ不利益ナルヲ以テ保佐人ハ親族會ニ向テ臨時保佐人ヲ選定スヘキコトノ請求ヲ爲スコトヲ要ストセリ是レ親權ニ關スル第八百八條ノ規定ト同一趣旨ニ出

タルモノナリ 後見ニ付テハ後見監督人ナル者アリテ此ノ如キ場合ニハ被後見人ヲ代表スルコトト爲レルヲ以テ此必要ヲ見スト雖セ準禁治產者ニ付テハ斯ル規定ナキヲ以テ第九百九條第二項ニ之ヲ明言シタルナリ
第一款 後見監督人

第一 後見監督人ノ選任 著者ノ事務監督人ニ付キ謀取ノ天眞良識者人ニ委嘱セサセイテ後見監督人ハ其名ノ如ク後見人ヲ監督シテ能ク其任務ヲ盡サシメ又急迫ノ事情アル場合ニハ被後見人ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲シ又被後見人ト後見人トノ利益相反スル行爲ニ付テハ被後見人ヲ代表スル等ノ職務ヲ勤ル者ナリ新民法ハ後見監督人ニ付キ舊民法(人事編第一六九條、第一七〇條)ニ於ケルカ如ク之ヲ置クト置カサルトテ自由ヲ認メシテ必ミ之ヲ置クニテ要スルモトセリ後見監督人ハ遺言ニ依リテ指定セラレタル者ト親族會ニテ選任セラレタル者トノニ種アリ後見ニ付テハ此他尙ホ法定後見人アレドモ後見監督人ニハ法定又被ノナシ其理由ニ後見監督人ハ後見人ヲ監督スヘキ任務ヲ帶フル者ナレム

後見人カ定メレル上ニ於テ適當ノ夫々選フ必要アリテ雖未法律ヲ以テ之ヲ定ムルハ當ヲ得サルヲ以テナリ而シテ遺言ニ依リテ後見監督人ヲ指定スルヨトア得ル者ハ後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ト同シク未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者是ナリ(第九一〇條、舊民法人事編第一六九條第二項)此ノ如ク遺言ニ依リテ後見人ヲ指定スル者ト後見監督人ヲ指定スル者トヲ同一ニセシム適當ナル後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ其之ヲ監督不當ニ適當ナル者ヲ指定スルコトヲ得ヘタレバナリ但親權者ハ必シモ後見人及ヒ後見監督人ヲ指定セナルベカラサルニ非サルカ故ニ或ハ後見監督人ノミヲ指定シテ後見人ヲ指定セナルヨシテ得ヘタ或ハ後見人ノミヲ指定シテ後見監督人ヲ指定セナルコト得ヘシ故ニ若シ後見人ノミヲ指定シテ後見監督人ヲ指定セサルトキハ第九百十一條ノ規定ニ依リ親族會ニ於テ選任スヘキモノナレハ此場合ニ於テハ親族會ハ宜シク後見人ヲ監督スルコトヲ得ル者ヲ選定スルコトヲ要ス然シニ親權者ニシテ後見人ヲ指定セスシテ後見監督人ノミヲ指定シタルトキハ如何此場合ニ於テハ第九百三條又ハ第九百四條ニ從ヒ戸主又ハ親族會ニ於テ選任

シタル者後見人ノ任ニ當ルヘキヲ以テ前ニ指定セラレタル後見監督人カ後定マルヘキ後見人ヲ監督スルニ適當スルコトヲ期スヘカラサルナリ
此規定ハ未成年者ニ付ナノミ適用セラレ禁治産者ニ付ナハ其適用ナシ
後見監督人ヲ指定スル權アル人カ其指定ヲ爲サナルコトアリ又指定スル者ナキコトアリ此場合ニハ第九百十一條ノ規定ニ依リ親族會之ヲ選任ス而シテ之ヲ選任スルカ爲スニハ親族會招集ハ必要アリ之ヲ招集スルニハ法定又ハ指定後見人アルトキハ此者カ後見事務著手前ニ之ヲ裁判所ニ請求スルヲ要シ若シ之ヲ怠リタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得是レ後見人ノ專横ヲ豫防スルノ精神ニ出タルモハナリ而シテ後見事務著手スル前トハ即チ財產ノ調査目録ノ調製ノ如キ事務ニ著手スル前又謂ア又其後見人ヲ免職スルキ親族會ハ第九百四十四條ノ規定ニ從ヒ利害關係人ノ請求ニ因リテ招集スルモノナリ人若張ヘ場合は一ノ時異議書人又は親族會に於テ之ニハ當後見監督人選任人ハ第三スル親族會招集請求ノ義務ハ法定後見人及ヒ指定後見人ニ存シ選定後見人ニハ此義務ナシ何トナレハ親族會ニ於テハ後見人ヲ選

任スルト同時ニ後見監督人モ選任スヘケレハナリ

第二 後見監督人ノ改選後見監督人ノ欠缺シタル場合ニシテ二ハ後

見人更迭ノ場合是ナリ(第九一二條、第九一三條)

(一) 後見監督人カ死亡シ又ハ第九百七條及ヒ第九百八條ニ當ルトキハ後見監

督人タルコトヲ得サカル故ニ此場合ニベ後任者ヲ定ムサカルヘカラス是ヲ以

テ第九百十二條ニ於テ後見人就職ノ後後見監督人ノ缺ケタルトキハ後見人ヲ

シテ連帶ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要スト規定シ

若シ之ヲ怠リタルトキハ後見人ハ免職セラルモノトス此場合ニ於ケル親族

會ノ招集ハ之ヲ裁判所ニ請求セサルハ既ニ親族會ノ組織アルヲ以テ其必要ヲ

見サルカ爲メナリ

(二) 後見人ノ更迭シタルトキハ後見監督人ヲモ改選セサルヘカラス是レ元來

後見人ヲ監督スルニ適當ノ人ヲ後見監督人ト爲ス者ナルカ故ニ前ノ後見人ニ

ハ適當ノ後見監督人ナルモ後任ノ後見人ヲ監督スルニハ不適當ノコトアリ故

ニ監督ノ性質ヨリシテ此ノ如キ場合ニハ後見監督人ヲ改選セサルヘカラスト
セルナリ但再選ハ敢テ法律ノ禁スル所ニ非ス新後見人カ親族會ノ選任シタル
者ニ非サル場合ニ於テハ後見監督人ハ連帶ナク親族會ヲ招集シテ後見監督人
ノ改選ヲ爲サシメサルヘカラス之ニ述フトキハ新後見人ト連帶シテ其責ヲ負
ハサルヘカラス(第九一三條)若シ親族會カ後見監督人ノ改選ヲ爲ササルトキハ
第九百五十三條ニ依リ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラナルナリ・
後見監督人タルノ資格ハ總テノ人ニ存スルヲ以テ原則トス然レトモ之ニハ二
ノ例外アリテ一ハ總ヲ如何ナル場合ニ於テモ後見監督人ト爲ルコトヲ得サル
者第九一六條第九〇八條ニハ後見人トノ關係上後見監督人ト爲ルコト能ハサ
ル者第九一四條(是ナリ)

後見監督人モ亦後見人ト等シク隨意ニ辭任ヲ爲スコトヲ得ヌ而シテ其之ヲ爲
シ得ヘキ場合ハ後見人ト同シク第九百七條ノ場合ニ限ル(第九一六條)

第三 後見監督人ノ職務
後見監督人ノ職務ニ付テハ第九百十五條ニ規定セリ別ニ説明ヲ要セヌ(舊民法

人事編第一九八條第一九九條第二〇〇條後見監督人及同條規定ノ職務ヲ執行スルニ付テハ第六百四十四條ノ準用ニ依リ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其事務ヲ處理セナルヘカラス(第九一六條是レ親權及セ夫權ト異ナル所ニシテ後見人第九三六條親族會(第九五三條)ト同シク被後見人保護ノ趣旨ニ出ツルモノナリ)

第三節 後見ノ事務

本節ニ於テハ法文ノ順序ニ從ヒ後見人ノ爲スヘキ職務權限及ヒ責任ヲ説明ス

(一) 就職ノ際ニ於ケル職務 後見人ノ主要ナル事務ハ被後見人ノ財産管理ニ在ルカ故ニ其就職スルヤ先ツ遅滯ナク財產ヲ調査シ財產目錄ヲ調製スヘキモノトス(第九一七條然ラサレハ後見終了ノ際管理ノ計算ヲ爲スコト能ハシテ後見人ハ適當ニ其任務ヲ盡シタルヤ否ヤヲ明カニスルコトヲ得サレハナリ而シテ財產調査ニ長日月ヲ費スハ被後見人ノ爲メニ不利益ナルヲ以テ法律ハ其

期間ヲ一箇月トセリ但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得ヘキモノトス是レ實際一箇月内ニ調査ヲ終ルコト能ハサル場合アルヘキヲ以テナリ後見人カ財產ノ調査及ヒ目錄ノ調製ヲ爲スニハ必ス單獨ニテ之ヲ爲スコトヲ得ス必ス後見監督人ノ立會ヲ要ス若シ然ラナルトキヘ其效ナキモメトス是レ專ラ後見人ノ專横ヲ防ガシカ爲メナリ故ニ若シ後見人カ右ノ規定ヲ遵守セス後見監督人ノ立會ナクシテ財產ヲ調査シ又目錄ヲ調製シタルトキ又ハ一箇月内ニ之ヲ爲ササルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルヨコトヲ得何トナレハ斯ル後見人ハ私曲ヲ逞シウセントスル者ニ非スンハ甚シキ怠慢者タルヲ免レサルヲ以テナリ

(二) 財產目錄調製前ニ於ケル後見人ノ權限 後見人ハ第九百十七條ノ規定カル所ノ職務ヲ行ハリレハ後見第一ノ本分タル財產ノ管理ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ原則トス然レトモ一切ノ行為ヲ爲スコト能ハストスルトキハ却テ被後見人ノ爲メニ不利益ナル場合アルヘキヲ以テ急迫ノ必要アル行為ニ限りリ之ヲ爲ス權限ヲ與ヘタリ故ニ後見人カ急迫ノ必要ナキ行爲ヲ財產ヲ調査目錄ノ調

製前ニ爲シタルトキハ其行爲ハ被後見人ニ對シテハ固ヨリ其效ナシ然レトモ一般ノ規定ニ依レハ後見人ハ被後見人ヲ代表シテ財產上ニ關スル一切ノ法律行爲ヲ爲スヘキ權限ヲ有スル者ナルヲ以テ善意ノ第三者即チ財產ノ調査、目錄ノ調製前ナルコトヲ知ラナル者ニ對シテハ其行爲ハ之ヲ有效ナリトセツルヘカラス然ラサレバ第三者ハ爲メニ意外ノ損害ヲ被ルヘキヲ以テナリ(第九一八條)

若シ第三者カ惡意ナルトキハ第百十三條乃至第百十八條ノ規定ヲ適用スヘシ即チ被後見人ノ追認アリタルトキハ行爲ノ當時ニ遡リテ其效力ヲ生シ然ラナルトキハ被後見人ニ對シテハ無効ナリトス
 (三) 後見人ハ財產ノ調査ヲ爲ス前被後見人ニ對シ債權ヲ有シ債務ヲ負フ場合ニハ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス第九一九條舊民法人事編第一八八條蓋シ財產ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルハ財產ノ狀況ヲ明確ニスルカ爲メナルヲ以テ債權債務ノ如キモ固ヨリ之ヲ調査シテ目錄ニ記載スヘキハ當然ナリ故ニ後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ申出ツ

ルノ要アリ若シ然ラスンハ後見人ニ私曲ヲ計ルノ餘地ヲ與フルノ虞アルヲ以テナリ
 後見人カ債權ヲ申出ヲナルトキヘ其債權ヲ失ヒ債務ヲ申出スアルトキハ其制裁トシテ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ費第九一九條第二項但以上ハ後見人カ其債權債務ノ存スルコトヲ知リテ之ヲ申出ヲナリシ場合ニ於ケル制裁ニシテ若シ之ヲ知ラナリシトキハ此ノ如キ制裁ヲ受クルノ理由ナカルヘシ
 (四) 被後見人カ包括財產ヲ取得シタル場合 第九百十七條乃至第九百十九條ニ規定シタル所ノモノハ後見人カ就職後被後見人ノ爲メニ包括財產ヲ取得シタル場合ニモ之ヲ準用スルナリ第九二〇條蓋シ包括財產ノ取得ハ被後見人ノ爲メニ最モ大ナル利益ナレハ後見人ニ此義務ヲ負ハシムルニ非ナリハ被後見人ノ不利ナルカ爲メナリ
 (五) 未成年者ノ身上ニ關スル後見人ノ職務 未成年者ノ後見ハ親權ニ代ヘキモノナルヲ以テ法律ノ原則トシテ親權ニ關スル規定ヲ準用スルコトセリ然レトモ後見人ハ後見人一機關ニ過キナルヲ以テ後見人ミニテハ未タ全ク

親權者ト同一ノ権利ヲ有スル者ニ非ス即チ後見人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條第八百八十五條ニ規定セル親權者ノ権利ト同一ノ権利ヲ行フコトヲ得ルモ親權ヲ行フ父又ハ母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ未成年者ヲ懲戒場ニ入レ營業ヲ許可シ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトハ重大ナル事項ナルヲ以テ獨斷ニテ爲スコトヲ得ス必ス親族會ノ同意ヲ得サルヘカラストセリ(第九二一條舊民法人事編第百八十四條第百八十五條ニ通路未同一ノ規定アリ)。

(六) 禁治產者ノ身上ニ關スル後見人ノ職務 禁治產者ヲ後見ニ付スルハ未成年者ヲ後見ニ付スルト大ニ其趣ヲ異ニシテ未成年者ニ在リテハ身體・智能ノ未タ發達セナル者ナルヲ以テハ監護、教育スルヲ必要ナリトス然ルニ禁治產者ニ在リテハ之ト異ナリテ精神喪失ノ常況ニ在ルーノ患者ナレハ之カ療養看護ニ注意セサルヘカラス故ニ法律ハ被後見人ノ資産ニ應シテ相當ノ療養看護ヲ力ムヘキコトヲ命シタリ但被後見人ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルカ如キハ費用其他ニ付キ大ナル影響アルヘキヲ以テ後見人ノ獨斷ニテ處置スル。

(七) 被後見人ノ財產ニ關スル後見人の職務 後見人ハ被後見人ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル法律行為ニシテ被後見人又代表者第九二三條而シテ被後見人ノ行爲ヲ目的トスル債務又生スヘキ場合ニ於テハ被後見人ノ同意ヲ要スルコト第八百八十四條ニ規定シタル親權者ノ場合ト同一大ナリ然レトモ後見人ノ管理權及ヒ代表權ハ親權者ノ管理權、代表權ノ如ク廣大ナラシシテ數多ノ制限ヲ受クルコト以下説述スル所ノ如シ大額金額ヲ超過シテ被後見人ノ財產ヲ管理後見人ハ被後見人ノ生活、教育、療養看護及ヒ財產管理ノ爲メニ毎年費用ヘキ金額ヲ豫定スヘキ義務アリ(第九二四條舊民法人事編第一九〇條第一項第二〇九條第二二六條是レ舊シ被後見人ノ財產ヲ濫費セカラシムンカ爲メナレバ臨時必要ノ場合ニモ豫定額ヲ超過スルコト能ハストスルハ酷ニ失スルヲ以テ已ムコトヲ得ナル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スル事上更勤勉ヲ期ルナリ(第九二四條)。

(八) 報酬ヲ受クルノ権利(第九二五條) 後見人ノ任務ハ公益ノ爲メニスル國民

(八) 義務ナレバ常ニ報酬ヲ與ツルニ要ナルヘシト雖セ場合ニ依リ之ヲ與フル
ヲ以テ相當トスルコトアルヘキヲ以テ本法ヘ之ヲ親族會ノ決議ニ任セタリ然
レトモ被後見人ノ配偶者、直系血族又ハ戸主ノ如キハ當然被後見夷ヲ保護スベ
キ地位ニ在ル者ナルヲ以テ報酬ヲ受ケシムサルナリ。但モ是ニ付テ日本
(九) 有給ノ財産管理者ヲ使用スルノ權第十九二六條。後見人カ自己ノ責任ヲ以
テ財産管理ニ付キ復代理人ヲ使用スルコトヲ得ルハ總則ノ規定第一〇六條ニ
依リテ明カラリ然レトモ有給ノ財産管理者ヲ使用ズルニハ親族會之同意ヲ得
サルヘカラス其有給ト無給トヲ問ハス財產管理者ヲ使用シタル場合ニ於テモ
其管理者ノ行為ニ付キ自ラ責任ヲ負ハサルヲ得ス唯已ムヲ得サル並出テ之ヲ
使用シタルトキハ單ニ其選任及ヒ監督ニ付テハミ其責ヲ負ハキモノトス(舊
民法人事編第一九〇條第二項)
(一) 金錢ヲ寄託スルノ義務後見人ハ被後見人ノ財產ヲ保護シ且其利確ヲ開
ラサルヘカラサルヲ以テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取りタル金錢ヲ或額ニ
達スレム之ヲ寄託スルノ義務ヲ負ハシタルナリ但寄託スヘキ金額ハ親族會

ニ於テ豫定セサルヘカラス若シ後見人カ受取リタル金錢豫定額ニ達スルモ尚
ホ相當ノ期間内ニ寄託セサルトキハ其制裁トシテ法定利息ヲ支拂ハサルヘカ
ラス(第九二七條舊民法人事編第一九一條)。不應當セラルモ亦可也
(二) 指定後見人及ヒ選定後見人ハ毎年少クトニ同一被後見人ノ財產ノ狀況ヲ
親族會ニ報告スルコトヲ要ス(第九二八條舊民法人事編第一九二條第二二六條
第二二八條)是ヒ後見人ノ私曲ヲ防キ且親族會ヲシテ後見人ヲ監督スルニ便
ナラシメシカ爲メナリ而シテ此義務ヲ指定後見人ト選定後見人トニ限リ之ヲ
負ハシメ法定ノ後見人ニハ之ヲ負ハシメサル所以ノモノハ法定後見人ハ概子
被後見人ト自然ノ關係アルヲ以テ被後見人ノ爲メ危險少カルヘキノミナラズ
法定後見人ハ如何ナル場合ト雖モ法律上後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス且報
酬ヲ求ムルコトヲ得サルモノナルヲ以テ此義務ヲ負ハシムカルハ誠ニ失スト認
メタルモナルヘシ即ち亦即ち誠ニ失スル事叶テ大ヤハ詳察イ難シ茲見人入
(三) 後見人カ財產ニ關スル重大ナル行為ヲ為シ得サルモ親族會ヲ同意少得サ
ルヘカラス(第九二九條第九三三條舊民法人事編第一九三條第一九四條第一九

六條第三二六條第三二九條第九百二十三條三依レハ後見人ハ被後見人ノ財產ニ付テハ廣大ナル權限ヲ有シ又第四條ニ依リ未成年者ハ法律行為ヲ爲スモ付キ同意ヲ爲スノ權利ヲ有スト雖モ總テ如何ナル重大ナル行為ト雖モ後見人カ獨斷ニテ之ヲ爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スニ同意スルコトヲ得セシムルハ頗ル危險ナリト謂ハサルヘカラス故ニ第九百二十九條ニ於テ之カ制限ヲ設ケタリ但元本ノ領收ハ重大ナルヲ非スト雖モ之ヲ後見人ニ一任セリ是レ其害ナキヲ認ヌタルニ因ルヘシミ義人也此處也テ後見人ニ請求權人ハ遺産此他尙ホ後見人カ後見人タルカ故ニ爲スニト能ハサル行為アリ第九三〇條舊民法人事編第一九五條財產取得編第三七條第三八條即チ後見人ハ被後見人ノ財產又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受タルコト能ハサルナリ然レントモ法律ハ其行為ヲ以テ絕對ニ無効ト爲シタルトキニ限ルヲ以テ其以外ニ於テ權利爲セリ蓋シ其行為ハ必スシモ常ニ被後見人ニ不利益ナルモノニ非ナレハナリ」右ノ規定ハ後見人カ讓受行為ヲ爲シタルトキニ限ルヲ以テ其以外ニ於テ權利ヲ得タルトキ例へハ相續遺贈等ニ因リ之ヲ得タルトキニ本條ノ適用ナシ又此

取消權ハ無能力者ノ行為ニ關スル取消權ト其性質ヲ同シウスルヲ以テ第十九條ヲ準用スヘキモノトセリ且第百二十一條乃至第百二十六條ノ規定即チ取消ニ關スル一般ノ規定ハ此取消權ニ付テモ亦之ヲ適用スヘキハ勿論ナリ
 (三) 後見人カ其任務ヲ職シウシタルトキノ責任、後見ノ職務ハ一日セ之ヲ擴シタスルコト能ハス然ルニ若シ後見人キシテ其職務ヲ盡サナランカ後見アリテ其實ナキモノナルヲ以テ之ニ對スル制裁ナカルヘカラス而シテ損害賠償ハ損害ノ既ニ生シタル後ニ於ケル救濟方法ニ過キナレハ未タ之ヲ以テ足レリトスヘカラス故ニ法律ハ損害ヲ未發ニ防キ以テ被後見人ヲ保護センカ爲メ第九百三十二條ノ規定ヲ設ケタリ即チ親族會が臨時管理人ヲ選定シテ此者ヲ以テ財產ノ管理ヲ爲シムルコトヲ得シ後見人ハ其管理人ノ行為ニ付キ其責任ヲ負フヘキモノトセリ但後見人ハ過失アル管理人ニ對スル求償權ヲ有スヘキハ勿論又被後見人モ亦管理人ニ對シ損害賠償ヲ求ムコトルヲ妨ケサルナリ

右ノ管理人ハ固ヨリ財產ヲ管理スルニ止マリ被後見人ノ身上ニ付カハ何等ノ權限ヲ有セス且財產ニ付キ管理行為直モ權限ヲ有スルハ過キナルヲ以テ被

後見人ニ代リ法律行為ヲ爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スニ同意スルコトヲ得
故ニ若シ後見人カ右等ノ行爲ヲ爲サルトキニ之ヲ免除外他ニ方法ナ
カルヘシ(第九〇八條第八號)

(四) 後見人ノ擔保提供ノ義務第九三三條¹ 後見人カ親族會ノ決議ニ從ヒ被後
見人ノ財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供スルノ義務ヲ負フハ恰モ夫
婦財產制ニ於ケル夫ノ擔保義務第八〇三條² 其精神又同シタルモノニシテ
後見人カ故意又ハ過失ニ因リテ被後見人ニ損害ヲ加フヘキ危險ヲ豫防スル爲
メニ設ケタル規定ナリ故ニ常に必ず擔保ヲ供ナサルヘカラヌルニ非ヌシテ之
ヲ供スルト否トハ親族會ノ意見ニ「任シタリ舊民法債權擔保編第二百四條第
一項第二號及ヒ第二百十七條第二百二十七條ニ於テハ當然擔保ノ義務アリモ
ノトセリ(佛國民法亦同シ)是レ後見人ノ爲メニ頗ル責難ナル規定ナルヲ以テ新
民法ニ於テハ親族會ノ意見ニ「任セルヨリ前述之如シ而シテ法文ニ「相當ノ擔
保」アルカ故ニ動産不動産保證等苟モ擔保並相當正認ヲ得キ既ノナレハ可
ナリトス(註註文書ハ詳載ニ關ス)、専當證イ其封題ミ同書文書ハ既モ署名ナリ

(五) 月主權及ヒ親權³ 行カテ義務第九三四條舊民法大事編第二五七條⁴ 此義
務ハ親權者ニ付スル事⁵ 第八百九十五條ト同一ノ趣旨ニ出タル相⁶ トニ
シテ被後見人カ月主ナルキハ後見人ハ其月主タル被後見人ニ代リテ其權利
ヲ行フセノトセリ然レドモ第八百九十五條ノ如ク總テノ行爲ニ付テ無制限ト
スルハ被後見人ノ爲謀ニ不利益カ所ヘキアリテ家族ヲ離縛シ復縛ヲ拒絕シ家
族ノ分家若クハ廢絶家再興ニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ハコトヲ要スル
モノトセリ又親權ニ付スルニ親權者カ代リ行フ場合ト同様ノ信任ヲ置クコト能
ハサルカ故ニ後見ノ任務ニ付テ設ケタル規定ハ皆之ヲ準用スルゴトトセリ故
ニ此制限内ニ於テノミ被後見人ニ代リテ親權ヲ行ハサルヘカラス例ヘハ被後
見人ノ子ノ爲メニ財產目錄ヲ調製スルカ如キ(第九十七條)又其者の生活教育等
ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定スルカ爲メニ親族會ノ同意ヲ要スルカ如キ(第
九二四條即チ是ナリ)⁷

(六) 管理權ノ範圍第九三五條⁸ 親權者カ未成年者ノ財產管理權ヲ失ヒ又ハ財
產ノ營運ヲ辭シタル時モハ財產ノ管理ニ付テノミ後見人ヲ選任スヘキモ人ナ

レハ(第九〇〇條第一號後段)此場合ニ於テ被後見人の財産管理權人モテ有シ未
成年者又身上ニ關シテハ親權者之ヲ保護監督スルキ權及於財產及後見人又ハ相
(四)注意ノ義務、管理權ノ制限過失ノ責任(第九三六條) 親力子ノ財産ヲ管理シ
夫カ妻ノ財産ヲ管理スルニ付表ハ「般ノ原則タル善良ナム管理者」ノ注意ヲ以
テセス自己人物ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テセス可ガリ反せば然ルニ後見人
ハ親權者カ我子ヲ念フ如ク夫カ妻モヘアリニ因リ後見人カ被後見人ハ財產
ヲ管理スルニ付モ法律ヲ以テ其注意ノ程度ヲ重クス所必要アリ是レ第九
百三十六條ニ於テ第六百四十四條ヲ準用スルコトトシタル所以ナリ又後見人
ノ財產管理ハ父人子ニ對スルト同一ノ信用ヲ爲シ難キモノアルヲ以テ親權ヲ
行フ母ト同ニテ認メ第八百八十七條ヲ準用シテ後見人カ被後見人ハ夫ニ第
八百八十六條ノ行爲ヲ爲スニ付オハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スシ爲シ若
シ此規定ニ違反シテハ其行爲ヲ與ヘタル行爲ヲ付表ハ第十九條ヲ準用
シテ被後見人ハ其行爲ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ又離合親族會ノ同意ヲ
得テハシタル行爲ト雖モニ過失アリトキハ其行爲ヲ付表ハ資ニ免ルコト

ヲ得サルト同一ノ理由ニ據リ第八百八十九條第二項ヲ準用シテ被後見人ハ親
族會ノ同意ヲ得テハシタル行爲ニ付テ其行爲ニ付キ後見人ニ過失アリト書
ハ後見人ハ其責ヲ免ルコトヲ得サルモノトス又第九百三十六條ハ第八百九
十二條ヲ準用セルカ故ニ無償ニテ被後見人ニ財產ヲ與ヘタル第三者カ後見人
(シテ)其財產ヲ管理ヲ爲ナシメサル意思ヲ表示シタルトキハ後見人ハ其財產
ヲ管理ヲ爲スコトヲ得ス若シ其第三者カ管理者ヲ指定セス又ハ管理者ノ權限
カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニハ被後見人親族又ハ檢事ノ請求ニ
因リ裁判所之ヲ選任スヘキモノトス

第四節 後見ノ終了

中止原因人ハ被後見人ハ被後見人ハ被後見人ハ被後見人ハ被後見人
後見人終了ノ原因ハ或ハ被後見人ニ出ツルコトアリ或ハ後見人ニ出フルコト
アリ被後見人ニ原因スルモノハ第一、被後見人カ死亡シタル事、第二、被後見人
カ成年ニ達シ又ハ禁治產ノ宣告ヲレタルトキ第三、他人ノ養子ト爲リタ
ル爲ス養親カ親權ヲ行フトキ第四、戸主カ後見人タル場合ニ於テ被後見人カ其

家又去り外ル事は是カリ又其後見人主原因アル場合ハ第一後見人死後山シタルトキ第二後見人カ辭任シタルトキ第三後見人カ其資格失ヒ又ハ免職セヌレタルトキ第四第九百三條第一項ノ場合ニ於テ父兄ハ母カ其家又去リタルトキ第五第九百三條ノ場合ニ於テ戸主カ隠居ヲ爲シタルトキ最大リ面シテ右イ中其原因カ被後見人ニ出ソル場合ノ第一乃至第三ニ於テハ後見ハ全ク終了スト雖モ其他ノ場合ニ於テハ從來ノ後見人ノ任務終了スルマテニシテ被後見人ニハ更ニ後任メ後見人ナカルヘカラス

以上ノ原因ニ由リテ後見終了シタルトキハ後見人ニ如何ナル權利義務アルカ是レ本節ニ於テ規定ジタル所ナリ三者又皆既存ミ前既存又ハ營業者又ハ賃業者(一)計算ノ義務アリソ他ノ財産ヲ管理スル者ハ必ス其財産ノ計算ヲ爲ツタルヘカラサルヲ以テ後見人モ亦後見終了ノ場合ニハ必ス被後見人ノ財産管理ノ計算ヲ爲ツタルヘカラサルモノトス而シテ此計算ヲ爲スニ付セ期間ヲ定期トキハ運営ノ爲メ危害ノ虞アルヲ以テ法律ハ其期間ヲ二箇月内ト爲シ若シ必要ナルトキハ親族會並於テ之ヲ伸張スルモト不得ガ由メトキリ此義務

唯リ後見人ノミナラス其相續人ニモ亦之ヲ負ムシヌタリ蓋シ後見ノ義務ハ一身ニ専屬スルモノニシテ其相續人ニ之ヲ承繼セサルヲ以テ原則トスド雖モ後見終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ被後見人其相續人又ハ法定代理人ニ其事務ヲ處理スルコトヲ得ルモ至ルヤテノ必要ナル處分ニ後見人ノ相續人ニ於テ之ヲ爲サルヘカラス是レ第九百四十一條ノ規定スル所ナリ右ノ外第十九百三十七條ノ計算ハ相續人ニ於テ之ヲ承繼セサルヘカラス蓋シ管理ノ計算ハ専ラ財産ニ關スル事項ナルヲ以テ若シ相續人ニ於テ此義務ヲ承繼セストセハ後見人カ死亡シタル場合ニ於テハ被後見人ハ殆ト當ニ損失ヲ受ク又キ虞アルヲ以テナリ又ハ後見人ハ被後見人又ハ親族會又ハ賃業者又ハ法定代理人ノ右後見人ノ爲スニキ計算ニ付テハ必ス後見監督人ノ立會ヲ要シ後見人更迭ノ場合ニ於テハ親族會ノ認可ヲ得サルヘカラストセリ第九三八條舊民法人事権第二〇六條ノ後見監督人ハ前立會ノ後見人又ハ前立會ノ後見人ナリヤ前立會ノ後任メ後見人ニ立會ヲ

後見人更迭ノ場合ニハ後見監督人モ亦更迭スヘキモノナレハ此場合ニ於テ計算ニ立會ヲヘキ後見監督人ハ前立會ノ後見人ナリヤ前立會ノ後任メ後見人ニ立會

ナリヤ曰ク前任ノ後見監督人ナリトス蓋シ計算ノ終了ニ至ルテハ監督ノ任務未タ終ラサルノミナラス前任ノ後見監督人ハ前任ノ後見人ヲ監督スルニ連任ニシテ後任ノ後見監督人ハホタ財産ノ實況ヲ詳ニセサルヲ以テ計算ニ立會フモ殆ト其效ナカルヘキヲ以テナリト第三百三十九條此種監督人事件右就レノ場合ニ於テモ計算ヲ爲スニハ後見監督人ノ立會ヲ必要ス故ニ其立會ナクシテ爲シタル計算ハ無效ト尙ホ後見人ノ更迭ノ場合ニ於ケル計算ハ親族會ノ認可ヲ得ナル『カラス蓋シ此場合ニ於タル計算ハ後任ノ後見人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ若シ前任ノ後見人ト後任ノ後見人ト通謀スルニ於テハ被後見人ノ爲メ不利益ナル計算ヲ爲スヲ得ベキヲ以テ其計算ノ審査ハ之ヲ後任ノ後見人ニ一任セシタル親族會ノ審査ヲ經ベキモノトシタルカラシ其他ノ場合ニ於テハ計算ハ被後見人又ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ本人又ハ其相續人ニ於テ之カ審査ヲ爲スニ於テハ別ニ親族會ノ審査ヲ必要トセサルナリ』未成年者カ成年ニ達シタルニ因リテ後見ノ終了シタル場合ニ於テハ被後見人ハ既ニ成年ニ對シタル後ナカルヲ以テ能力ニ付テハ一般ノ成年者正異ナカルナキ

ヲ以テ純理ヨリ論スレハ其行爲ハ完全ナルモノト謂フヘク敢テ法律ノ干渉ヲ要セナルカ如シト雖モ未タ後見ノ計算終了セサル間ニ於テ其者ト後見人及彼相續人トノ間ニ爲シタル契約及ヒ單獨行爲ハ往往不正ノ原因ニ基キ被後見人ニ不利益ニ於テ爲サルニヨトアルヲ以テ此ノ如キ行爲ハ被後見人タリシ者シテ取消スコトヲ得セシヌツルヘカラサルナリ第九三九條舊民法人事編第二〇八條同上此種監督人事件ニ於テハ適用セサルハ勿論右第九百三十九條ノ規定ハ後見終了ノ總テノ場合ニ適用スヘキモノニ非ス未成年者ノ後見カ其成年ニ達シタルニ因リテ終了シタル場合ニ限リ之ヲ適用スヘキモノトス故ニ禁治產者ノ後見ノ終了シタル場合ニ之ヲ適用セサルハ勿論被後見人ノ死亡又ハ後見人ノ死亡辭任免職等ニ因リ後見ノ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用セサルモノトス而シテ此取消權ハ無能力者ノ取消權ニ非スト雖モ其性質ニ於テハ類似相類スル所アルニ由リ無能力者ノ取消ニ關ス第一九九條及ヒ第二百二十一條乃至第二百二十六條ノ規定ヲ準用スルモノトセリ

(二) 利息ヲ支拂フノ義務此義務ハ計算ノ結果後見人ヨリ被後見人ニ又ハ被

後見人ヨリ後見人ニ返還スベキ金錢ヲ付キ起ルモノニシテ此場合ニハ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要スルモノトセリ(第九四〇條第一項)是レ蓋シ返還スヘキコトノ明確ニ至レムモノハ直ナニ之ヲ返還スベキコト當然ナルニ直チニ返還セサリシハ多少ノ損害ヲ相手方ニ生セシムルヲ以テ債権ニ關スル總則ノ規定ニ從ヒテ法定ノ利息ヲ支拂フ(ギモントシタルナリ)第四〇四條然レトモ若シ後見人カ被後見人ノ金錢ヲ消費シタル場合ニハ右ノ如ク單ニ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ拂フノミア以テ足レリトセス蓋シ後見ノ職務タル被後見人ノ財產ヲ管理シテ被後見人ノ爲メニ利益ヲ圖ルヘキモノナルニ却テ之ヲ自己ノ爲メニ消費スルカ如キハ不法モ亦極マレリト謂ハナルヘカラス故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ後見ノ計算終了ノ時ヨリ其金額ニ利息ヲ附シテ返還スルヲ以テ足レリトセス其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附スヘキゼノトシ尙ホ損害アリタルトキハ之ヲ賠償スヘキモノトセリ(第九四〇條第二項)又單ニ基テ被後見人ニ終了シタル場合ニ於テ其後見人タフシ者ニ切財產管理ノ義務ヲ免ムルモノトセハ被後見人ニ取次テ大失其損害ヲ被ル開トアルキニ由リ急追メ

事情アルトキハ被後見人又ハ後任ニ後見人財產ヲ管理フ爲メヨリ又得水火至ルアタ必要ナル處分ヲ爲スヨリヲ要スルモノトシ又後見ノ終了ハ其原因ノ後見人ニ出テタルト被後見人ニ出テタルかトヲ問ハヌ之ヲ他ノ一方ニ通知スルカ又ハ他ノ一方カ之ヲ知リタルニ非ナシハ之ヲ以テ他ノ一方ニ對抗スルモノトセ得ス(第九四一條第六四五條)舊民法人事編第二〇二條乃至第二〇四條)被後見人後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ生シタル債權ニ付テハ親族者又ハ親族會員ト子トノ間ニ生シタル債權ノ時效ト同シテ五年ノ時效ニ罹ルモノトシ其起算點ハ通常ノ場合ニ於テハ管理權消滅ノ時トシ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時トセリ(第九四二條)此時效ニ關スル規定ハ又保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ生シタル債權ニモ之ヲ準用スルモノトセリ(第九四三條)前十六半內審齊書我監督人被後見人(原書一ノ頁)其後見人ニ關する事項等ハ公證遺書セシム者ニ據越く但相人(原書二ノ頁)其後見人ニ關する事項等ハ公證遺書セシム者ニ據越く又若異人ニ關する事項等ハ公證遺書セシム者ニ據越く

第七章 親族會

一身一家ニ重大ナル事件アルニ當リ親族相協議シテ其事ヲ處理スルコトハ古

昔ヨリ存スル慣習ナリ然レトモ古昔ニ親族會ノ名稱アルニ非シテ之ヲ親類
吟味ト稱シタリ其他後見人ヲ選任スルニハ親族ノ協議ヲ以テシ又後見人カ被
後見人ノ所有ニ係ル不動產若クハ記名ノ公債證書ヲ他人ニ譲渡スニハ親族ノ
連署ヲ要スルコトハ内務省ノ達ニモ見タル所ナリ(明治十六年内務省番外達尤
モ此達ハ一般人民ヲシテ遵守セシムルノ效力ヲ有セナリシモ此達ニ依リテ親
族ノ連署ヲ要スルノ慣習ヲ生スルニ至レリ隨テ裁判所ニ於テモ此慣習ヲ認メ
親族ノ連署ナキモノハ之ヲ取消シ得ヘキモノトセリ又以テ親族會ナルモノノ
事實上存在セシメントヲ知ルヘキナリ然レトモ是レ素トノ惯習ニ過キシテ
別ニ法律ノ規定アリシモノニ非ス舊民法ハ其人事編第百七十一條乃至第百七
十七條ニ於テ親族會ニ關スル規定ヲ設ケ之ヲ後見ノ章中ノ一節ト爲シタリ斯
ル立法例ハ外國ニモ亦之ナキニ非スト雖モ親族會ヲ開クノ必要ハ唯リ後見ノ
場合ノミニ止マラス其以外ニ於テモ亦之カ必要ヲ見ルコトアリ隨テ總チノ場
合ニ通シテ適用ゼンカ爲メ新民法ニ於テハ特ニ一章ヲ設ケタリ(其題目)
(一) 親族會ノ招集(第九四四條舊民法人事編第一七二條第二七三條第一七六

第一七七條 我國ニ於ケル從來ノ慣例ハ親族會ヲ開クニ付キ別ニ裁判所ノ干
渉ヲ須ヒスシテ重ナル親族相會シテ協議ヲ爲スヲ常トシタルモ勤モズレバ二
三ノ親族相集リテ擅ニ議決ヲ爲スカラ如キ弊害アリシコトハ擅スヘカラサル事
實ナリシヲ以テ本法ニ於テハ諸外國ノ例ニ倣ヒ親族會ヲ開ク場合ニ於テハ裁
判所ヨリ之ヲ招集スルコトセリ然レトモ無能力者ノ爲メニ設クル親族會ハ
第九百四十九條ノ規定ニ依リ無能力ノ止ムアテ繼続スルヲ以テ最初一回ノ外
ハ親族會員又ハ其他ノ者ヨリ之ヲ招集スヘキモノトセリ而シテ無能力者ニ非
ナル者ノ爲メニ親族會ヲ開クヘキ場合ハ本編中所ニ其規定ヲ見ル所ナリ即
チ婚姻ノ場合第七七二條第三項繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セナル場合
(第七七三條二十五年未滿ノ者)協議上ノ離婚ヲ爲ス場合(第八〇九條十五年未
滿ノ者)養子ト爲ル場合ニ於テ繼父母又ハ嫡母カ承諾ヲ爲ス場合(第八四三條
第二項其他第八百四十六條並ニ離縁ニ關スル第八百六十三條等)是ナリ然レ
モ無能力者ニ非ナル者ノ爲メニ要スル親族會ハ其必要ヲ滿タセハ直チニ解散
スヘキモノナルカ故ニ其必要アル毎ニ招集セナルヘカラサルモノトス

親族會ノ招集ヲ請求シ得ル者ハ第九百四十四條ニ規定セル如ク本人、戸主、親族後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人はカリ而シテ同條ニ謂フ所ノ裁判所トハ何レハ裁判所ア指スカハ非訟事件手續法第九十六條乃至第九十九條ノ規定スル所ナリ若シ其管轄裁判所カ親族會ノ招集又ハ親族會員ノ辭任ノ申請ヲ却下シタル場合ニハ即時抗告ヲ爲シ得ルコトモ亦同法第一百一條ノ規定セル所ナリ舊民法人事編第一七二條ニ於テハ親族會ハ親族後見人、後見監督人、保佐人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リテ集會ストアリテ裁判所ハ干涉ヲ要セサリシナリ要スルニ新民法ニ於テハ親族會ヲ開クヘキ場合ハ請求ニ因リテ裁判所之ヲ招集スベキモノナレドモ裁判所ニ於テ之ヲ招集スルハ初ノ一回ノミト知ルヘン

(二) 親族會員ノ選定及ヒ其員數第九四五條舊民法人事編第一七一條第一項第一七四條) 親族會員ハ三人以上制限アルコトナシ故ニ裁判所又ハ之ヲ選定スル權アル者(最後ニ親權ヲ行フ者)其必要ニ應シテ之ヲ定ム而シテ其人ハ親族中最モ親等ノ近キ者ヨリ選定スルヲ以テ通例ト爲スベント雖セ場合ニ依リ必ス

シモ然ラサルコトアルヘタ其親族アルモ親族ヲ選定セスシテ他ノ緣故アル者ヲ選定スルヲ便ナリトスル場合ナキニ非サルヲ以テ法律ハ廣ク親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ云々ト規定シタルモノナリ茲ニ所謂「緣故アル者」下ハ例ヘハ本人又ハ父母ノ友人若クハ其家ニ久シク仕ヘシ者ノ如キヲ謂フ而シテ後見人ヲ指定シ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定シ得ルコトハ同條第二項ニ規定セル所ナリ即チ最後ニ親權ヲ行フ者ニシテ子ノ爲ミニハ最モ利益ヲ圖ルヘキ者ナルヲ以テナリ此場合ニ於テハ如何ナル者ヲ選任スルヤ又其員數ハ何人ナルヤム別ニ法律ニ規定ナキモ前項ト等シク親族又ハ緣故アル者ノ中ヨリ選任シ又其員數ノ如キモ三人ヨリ下ルコト能ハサルヘシ故ニ遺言者カ親族會員三名ヲ選定セサル場合ハ裁判所ニ於テ之ヲ補充スベキモノナリト信ス

(三) 親族會ヲ招集スヘキ場所 此招集ノ場所ニ付テ法律ニ何等ノ規定ナキヲルヘシ蓋シ裁判所ハ之ヲ招集スルノミニシヲ其會議ニ與ラサルカ故ニ場所ヲ

一定スルノ必要ナシト認メタルモノナルヘシ佛國ニ在リテハ親族會ノ會長ハ常ニ區裁判所判事之ニ任シ其招集ノ場所ハ區裁判所ト定ムト雖モ我國ニ於テハ全ク之ト同シカラサルナリ。此種兼不異限類似者有之。然レハ親族會員タル義務ト同シタ法定ノ理由アルニ非サレハ漫ニ辭任スルコトヲ得ス然レトモ其辭任ノ理由ハ後見人ニ關スル第九百七條ノ場合ヨリモ頗ル狹ク僅ニ二箇ノ場合ヲ掲ケタルニ過キス即チ(一)遠隔ノ地ニ居住スル者(二)正當ノ事由アル者是ナリ(第九四六條第一項舊民法人事編第一七八條是ヲ以テ第九百七條ニ規定セル現役ノ軍人公務ニ從事スル者ノ如キハ親族會員タルコトヲ辭スルノ理由トハ爲ラサルナリ是レ親族會員ハ後見人ノ如キ煩雜ノ事務ヲ負擔スルモノニ非ナレハナ

前述ノ如ク親族會員ニハ何人ヲ選任シ得ヘキヲ原則トスルト雖モ後見人、後見監督人、保佐人ハ親族會員タルコトヲ得サルモノトス(第九四六條第二項蓋シ此等ノ者ハ常ニ親族會ノ監督ヲ受ケ若クハ之ヲ監督スルノ任務アル者ナレハナリ)但親族會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルコトハ第九百四十八條ノ規定セル所ナリ尙ホ第九百八條ニ列記セル者ハ親族會員タルコトヲ得ス是レ無能力者又ハ信用ナキ者等ナレバナリ其他ハ何人タリトモ親族會員タルコトヲ不得ルカ故ニ親權者ノ如キモ亦親族會員タルニ妨ナシト謂ハナルニカラス(五)親族會ノ議事第九四七條舊民法人事編第一七五條(親族會ノ議事ハ普通會議ニ於ケルカ如ク會員ノ過半數ヲ以テ決シ會員カ自己ノ利害ニ關スル事項ニ付テハ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得サルモノトセリ茲ニ所謂過半數トハ出席者ノ半數以上ヲ指シタルモノニ非スジテ親族會員ノ過半數ノ意義ナリトス故ニ決議ハ常ニ會員過半數ノ出席アルニ非サレハ成立セサルナリ又総合過半數ノ出席者アリト雖モ會員ノ說多岐ニ分ルトキハ竟ニ決議ヲ爲スコト能ハサルヘシ此場合ニ在リテハ其決議ニ代ルベキ裁判ヲ爲スニトヲ裁判所ニ請求シ得ルコトハ第九百五十二條ノ規定セル所ナリ若シ親族會員中故意ニ毎會闕席スル者アルトキハ不適任者トシテ第九百八條第八號ノ規定ニ依リ之ヲ免黜スルヲ得ヘク又非訟事件手續法第十九條ニ依リ其選定ヲ變更スルコトヲ得ヘシ】

本人戸主家ニ在ル父母配偶者本家並ニ分家ノ戸主後見人後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ノ議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得サルモ親族會ニ於テ意見ヲ述フルコトヲ得ルモノナルカ故ニ親族會ノ招集ハ此等ノ者ニ通知スルノ必要アルモノトス第九四八條舊民法人事編第一七一條第二項若シ其通知ヲ怠リ此等ノ者ノ意見ヲ聽カヌシテ決議ヲ爲シタルトキハ如何第九百五十一條ニ曰ク親族會ノ決議ニ對シテハ一ヶ月内ニ會員又ハ第九百四十四條ニ掲ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得ト是レ親族會ノ不正ノ決議ニ對シテ救濟ノ途ヲ啓ケルモノナリ

(六)無能力者ノ爲ミニ設ケタル親族會第九四九條舊民法人事編第一七二條無能力者ニ非サル者ノ爲ミニ招集スル親族會ハ其必要ノ事項ヲ議決スルトキハ直チニ解散スヘキモノナリト雖モ無能力者ノ爲ミニ設ケタルモノハ無能力ノ止ムマテ繼續スルモノトス故ニ最初ノ一回ア裁判所之ヲ招集スヘキモハ本人其法定代理人後見監督人保佐人又ハ親族會員ニ於テ之ヲ招集スルモジトス

(七)親族會員ノ補缺第九五〇條非訟事件手續法第九九條無能力者ニ非サル者ノ爲ミニ招集スル親族會ハ其議事ノ終ルトキハ直チニ解散スヘキヲ以テ其會員ニ缺員ヲ生スルコト補ナルヘタ隨テ補缺ヲ爲スノ必要殆トナカルヘシト雖モ無能力者ノ爲ミニスルモノハ補缺ノ必要ヲ生スルユト往往之アルヘシ此場合ニ於テハ親族會員ヨリ之ヲ裁判所ニ訴求セサルヘカラス然ラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得サレハカリ

親族會ノ決議ニ對スル不服ニ付テハ前ニ一言シタル如ク必ス裁判所ニ訴フキモノトシ又其訴ハ會員又ハ第九百四十四條ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ爲スヘキモノトス第九五一條非訟事件手續法第九六條乃至第九八條此場合ニ於ケル相手方ハ會員ニ在リテハ其不服ノ訴ヲ起シタル會員以外ノ者又第九百四十四條ノ場合ニ在リテハ親族會員全體ヲ相手方ト爲ササルベカラス而シテ其訴ヲ爲スヘキ期間ハ一箇月日此期間ハ會員又ハ其他ノ利害關係人ニ於テ其決議ヲ知ルト否トニ拘ハラカ故ニ往往不正人決議ヲ爲スモ之ヲ救濟スルコト能ハカルノ不便アルヌ免レサルヘシモハ據處會員ハ其處滿ニ外ハ其處滿ニ外ハ

親族會カ決議ヲ爲スニト能ハサルトキハ親族會員ハ其決議ニ代ルヘキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得第九五二條舊民法人事編第一七六條是レ出席者少數ニシテ決議ヲ爲スコト能ハサルカ或ハ意見數箇ニ分レ過半數ト爲ラサル等ノ場合ニ必要ナル手續ナリ而シテ若シ親族會員ニ於テ右ノ裁判ヲ請求セサルトキハ其責任ヲ免レサルモノトス非誠事件手續法第一〇二條

(八) 親族會員ノ責任第九五三條親族會員ノ責任ニ付テハ第六百四十四條ノ規定ヲ準用スルカ故ニ委任代理ニ因ル責任ト同一ノ責任ヲ負ハサルヘカラズ是レ第九百十六條及ヒ第九百三十六條ノ規定ト同一趣旨ニ出タルモノナリ故ニ不當ノ決議ヲ爲シ本人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ賠償セサルヘカラナムコト明カナリ但其不當決議ニ賛成セサリ者ノ責任ナキコトハ論ヲ埃タアル所ナリ扶養ノ義務ナムモ本人ノ資力ヲ依リテ自ラ生活シ又ハ教育ヲ受タル所ナリ扶養ノ義務ナムモ本人ノ資力ヲ供スルカ又其者ヲ引取リテ之ヲ養フカ若然ヤ之ニ教育ヲ受ケシムガ人義務ヲ謂フ舊民法人事編第二十六條乃至第二十九條ニ於テ之養料ヲ給スルノ義務トシテ之ヲ規定シタルモ養料ノ文字ヽ扶養ノ義務ナムモノハ本人自身ノ資力ヲ依リテ自ラ生活シ又ハ教育ヲ受タルコト能ハサル者ニ對シ其生活ノ資力供スルカ又其者ヲ引取リテ之ヲ養フカ

(一) 扶養義務ノ性質此點ニ改訂合ニ附りテハ夫ハ扶養ノ義務ナムモ扶養ノ義務ナムモノハ本人自身ノ資力ヲ依リテ自ラ生活シ又ハ教育ヲ受タルコト能ハサル者ニ對シ其生活ノ資力供スルカ又其者ヲ引取リテ之ヲ養フカ若然ヤ之ニ教育ヲ受ケシムガ人義務ヲ謂フ舊民法人事編第二十六條乃至第二十九條ニ於テ之養料ヲ給スルノ義務トシテ之ヲ規定シタルモ養料ノ文字ヽ扶養ノ義務ナムモノ以テ新民法ニ於テハ「扶養ノ義務」ト改メタリ而シテ近親ノ者互ニ相助タルハ自然ノ性情ニ基ケル當然ノ義務ナレハ敢テ法律ノ規定ヲ要セサルモノノ如シト雖モシシテ儀義上ヨリ言ヘハ此等ノ者ノ間ニ於テハ更ニ大ナル義務アリト謂フコトヲ得セバ主ニ其求める體も天理義理也然る扶養義務者テハ釋氏百立十四證ニ張家子承成也前葉並其子兄弟子孫也

扶養義務者ニ付テハ第九百五十四條ニ規定セル如ク直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲スヘキモノトス尚ホ本族ノ外戸主ハ其家族ニ對シテ扶養ノ義務アリ第七四七條又夫婦ハ互ニ扶養ヲ義務アリ(第七九〇條)舊民法人事編第二六條第二七條親族互ニ扶養ヲ爲スハ固ヨリ自然ノ道ナリト雖モ之ヲ制限セタルトキハ底止スル所ナク遂ニ扶養義務ノ負擔ニ堪ヘナルニ至ル場合ナシトセルノミナラス或ハ遊惰ノ屬ヲ助長スルノ弊ナシト云フヘカラス是レ本條ノ制限アル所以ナリ然ヘ自然ノ理諦ニ基スハ當然ヘ律體セマニ既非ヘ然ヘ狀況直系血族兄弟姉妹ハ其家ヲ同シウスルト否トヲ問ハサルモ夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊属ニ付テハ其家ヲ同シウスル場合ニ限り扶養ノ義務アルモノトス第九四五條隨テ此種ノ者カ家ヲ同シウセサル場合ノ扶養ノ義務存セサルモノトス而シテ夫ハ妻ノ尊属ト家ヲ同シウセサル場合ヲ最モ普通ノ状態ナリトスルカ故ニ普通ノ場合ハ扶養ノ義務ナシ之ニ反シテ妻ハ夫ノ尊属ニ對シ夫ハ扶養ノ義務アルヲ普通ウスルヲ普通トスルカ故ニ此場合ニ在リテハ妻ハ夫ノ尊属ニ對シ夫ハ扶養ノ義務アルヲ普通アリトス又入夫ノ場合ニ在ザラハ婦ノ尊属ニ對シ夫ハ扶養ノ義務アルヲ普通

ノ狀態トス是レ家ヲ重スル精神ニ出テタル懐督上左結果ホ外ナラナルナリ

(三)扶養義務者ノ順位人へ扶養關係者又扶養受取人として扶養合ニ達ヒモハ扶養義務者數人アル場合ニ何人カ先ツ其義務ヲ盡スヘキヤフ知ルノ必要アリ是レ第九百五十五條ノ規定アル所以ニシテ同條ノ規定ニ依レハ其順序左ノ如シ

第一之配偶者夫婦間の妻ニ至ハヌ子孫又祖孫又其義孫モ當ル者扶養合ニ達ヒモハ第二之直系卑属夫婦又其義夫婦モ當ル者扶養合ニ達ヒモハ第三之直系尊属夫婦又其義夫婦モ當ル者扶養合ニ達ヒモハ第四之戸主夫婦又其義夫婦モ當ル者扶養合ニ達ヒモハ第五之夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊属ニシテ其家ニ在ル者扶養合ニ達ヒモハ第六之兄弟姉妹夫婦又其義兄弟姉妹夫婦モ當ル者扶養合ニ達ヒモハ

務ナルモノハ元來德義ト人情トニ基クモナムヲ以テナリ又直系血族間ニ在リテモ其親等ノ遠近ニ依リテ義務ヲ負フノ順序トシ尊屬キ在リテ父母・祖父母ニ先づ順序トスルカ如キ是ナリ第九百五十五條第二項ニ曰ク「直系尊屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第三項ニ掲ケタル直系尊屬間亦同シト尙ホ同順位ニ於テ扶養義務者數人アルトキハ其各義務者ノ資力ニ應シテ之ヲ分擔スヘキモノニシテ必シモ均等ノ負擔ヲ要セサルモノトス但其家ニ在ル者ト在ラナル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ其義務ヲ盡スヘキモノトス第九五六條例ヘハ家ニ在ル長子先ツ其義務ヲ盡シ尙ホ扶養ヲ要スル者ナルトキハ他家ニ在ル次子之ヲ負擔スルカ如シ是レ我國古來ノ慣習ニ由レルモノナリ

(四) 扶養権利者ノ順位
扶養義務者一人ニテ數人ノ扶養権利者ヲ扶養セサルカラナル場合ニ在リテハ如何ナル順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘ圖キ是レ第九百五十七條ノ規定スル所ナリ

第一 直系尊屬
第二 直系卑屬
第三 配偶者
第四 夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者
第五 兄弟姉妹ニ及ぶ夫婦
第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族員ニセシム時ヘセムイモ
此規定モ亦前段ノ場合ト同一趣旨ニシテ德義ト人情トニ從ヒテ之ヲ定メタルモノナリ今之ヲ歐洲ノ人情風俗ヨリ觀察スルトキハ或ハ之ヲ相當トセサルモノアラン然レトモ我國ニ在リテハ最モ適當ナル順序ト謂フヘシ而シテ直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ親等ノ最モ近キ者扶養ヲ受クルノ権利アルコトハ第九百五十五條第二項ト同一理由ニ基クモノトス(第九五七條第二項)
若シ同一順位ニ在ル扶養権利者數人アル場合ハ各其需要ニ應シテ其資ヲ分ツヘキモノトス(第九五八條第二項例ヘハ子ヲ有スル者ト有セサル者トハ同一ノ扶養ヲ受クルヲ要セサルヘシ而シテ此場合ニ於テモ扶養権利者カ其家ニ在ル

者ト其家ニ在ラサル者トアル下キハ家ニ在ル者先フ扶養ヲ受クルノ権利ヲ有スルモノトス第九五八條第二項

(五) 扶養義務ノ生スル場合
以上説明シタル所ニ依リテ如何ナル者カ扶養義務ヲ負フヘキカ又其順位ハ如何ニ定マレルカ又之ヲ受クヘキ者ハ如何ナル者ナルカ且其順位如何ハ諸君ノ既ニ會得セラレタル所ナリ仍テ今其扶養義務ハ如何ナル場合ニ生スヘキカラ説明セントス此事タル第九百五十九條第一項ニ規定セル所ニシテ同條ニ依レハ其場合ニアリ

一、自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキ

二、自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ
扶養義務ハ以上ノ場合ニ入ミ限リタルカ故ニ資産アリ者又ハ自ラ勞務ヲ爲セハ生活シ得ル者ノ如キハ扶養ヲ受クル權利ナキコト勿論ナリ尙ホ兄弟姉妹ノ如キハ更ニ之ヲ制限セリ即チ扶養ヲ受クヘキ兄弟姉妹ニ在リテハ自己ニ過失ナクシテ自活ノ途ヲ失ヒタルトキニミ互ニ此義務ヲ負フモノトス(第九五九

條第二項本文)是レ體ミ扶養ヲ受クル当トテ許ササルノ精神ニ出テタル極矣テ
ソ然レドモ扶養義務者カ戸主ナルキ而經合其家族タル兄弟姉妹カ過失ニ因リテ扶養ヲ受クヘキ場合ニ於テモ其義務ヲ免ルカヨリ少少得サムモノトス是レ

戸主ハ一家ノ長ニシテ其家産ヲ相續シタルモノニシテ家族ハ戸主ニ依リテ生活スルヲ一般ノ狀態ト爲セハナリ

(六) 扶養義務ノ程度ハ第九百六十條ニ規定セル如ク扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニシテ豫メ一定スルコトヲ得ス
若シ扶養義務者カ富貴ナランカ其扶養ヲ受クル者ノ待遇セ亦厚カルヘク若シ之ニ反シ扶養義務者カ貧賤ナランカ其扶養ヲ受クル者ノ待遇モ亦隨テ薄カラ
ナルヲ得ナルヘシ舊民法人事編第二十九條ニ於テハ權利者ノ必要ト義務者ノ資產トニ依リテ之ヲ定ムヘキモノト爲シタルモ新民法ハ義務者ノ身分ヲモ斟酌スヘキモノトセリ例ヘバ資力ハ甚タ大ナラサルモ華族ナレハ華族ノ身分ニ對スル丈ケノ扶養ヲ爲スヘキカ如キ是ナリ

(七)

扶養ノ方法

扶養ノ方法ハ第九百六十一條ニ規定セバカ如ク扶養義務者ノ選擇ニ從ヒ扶養

權利者ヲ引取リテ之ヲ扶養フカ又ハ之ヲ引取ラスシテ單ニ生活ノ資料ヲ給付スルカムトス然ヒトモ正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養権利者ノ請求ニ因リテ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得ルセメントス例ヘハ扶養権利者カ引取ラビスシテ生活ノ資料ヲ要求シ得ベキ正當ノ事由生シタル時キハ資料ヲ要求シ得ベキカ如シ要スルニ扶養義務履行ノ方法ハ義務者ノ選擇ニ任スルヲ原則ト爲シ唯特別ノ事由アル場合ニ限リ権利者ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ定ムルモノトス而シテ裁判所ノ判決ハ一旦確定スレハ之ヲ動スヘカラナルヲ以テ一般ノ原則ト爲スト雖モ扶養義務ノ方法ニ付テハ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ニ生ジタベトキハ何時ニテモ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求シ得ルノ特例ヲ設ケラレタルハ蓋シ至當ノ事ナリト謂フ(キナリ)第九六二條(扶養ノ権利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス)第九六三條扶養ヲ受クルノ権利モ財産ノ目的トスル権利即チ財產權ノ一カリト雖乎一般ノ財產權ノ如ク之ヲ處分ス

ルコトヲ得ス即チ之ヲ拋棄シ若クハ他人ニ譲渡スコトヲ得ス又差押ノ目的ト爲ラツル所以ノモノハ蓋シ扶養ヲ受クルノ權利ハ公益上ノ必要ニ出テ法律ノ規定ニ依リ特ニ付與シタルモノナルフ以テ若シ権利者カ之ヲ自由ニ處分シ得ルモノトセハ法律カ此制度ヲ設ケタル趣旨ニ反シ凍餒ノ者無類ノ徒ヲ生スルニ至ルヘキヲ以テ法律ハ其權利ノ處分ヲ禁シタルナリ尤モ扶養権利者カ扶養ノ資ヲ受ケタル後其得タルモノヲ處分スルハ固ヨリ妨ナキ所ナリ

民法親族終

弘法 講 緯

諸君之問答中、或有疑惑者、請勿以爲難。但當以實事實據、以實理實證、以實證實驗、以實驗實驗。則無往而不勝也。蓋吾人所學、非空談、非虛說、非空論、非空議。皆有根柢、有據據、有實實、有驗驗。故能無往而不勝也。蓋吾人所學、非空談、非虛說、非空論、非空議。皆有根柢、有據據、有實實、有驗驗。故能無往而不勝也。

民法親族

法律學士 鶴文一郎講述

(三十五年度講義錄)

和佛法律學校發行

民 法 親 族

法律學士 鶴文一郎講述

日本民法親族目次

民法 親族 目次

著者：大一派

(三十五年四月五日)

緒言	三
第一章 總則	三
第二章 戶主及家族	一六
第一節 總則	一七
第二節 戶主及家族ノ權利義務	二九
第三節 戶主權ノ喪失	三六
第三章 婚姻	五一
第一節 婚姻ノ成立	五一
第一款 婚姻ノ要件	五一
第二款 婚姻ノ無効及取消	六五
第二節 婚姻ノ效力	七五
第三節 夫婦財產制	七九

第一款 夫總則	二
第二款 親法定財產制	八〇
第四節 離婚事由	九六
第一款 協議上之離婚	九六
第二款 裁判上之離婚	一〇〇
第四章 親子	一三三
第一節 實子	一二四
第一款 父嫡出子	一二四
第二款 父庶子及ヒ私生子	一二十
第二節 養子	一三〇
第一款 緣組ノ要件	一三一
第二款 緣組ノ無効及ヒ取消	一四四
第三款 緣組ノ效力	一五一
第四款 離縁	一五二

第五章 親權

第一節 總則	一六七
第二節 親權ノ效力	一六九
第三節 親權ノ喪失	一七一
第六章 後見	一九二
第一節 後見ノ開始	一九八
第二節 後見ノ機關	二〇〇
第一款 後見人	二〇一
第二款 後見監督人	二一五
第三節 後見ノ事務	二二〇
第四節 後見ノ終了	二二三
第七章 親族會	二二九
第八章 扶養ノ義務	二四八

民法親族目次 終

第八章 大喪・葬禮

第九章 遺言會

第十章 遺言人・被工

第十一章 遺言・被工

第十二章 遺言・被工

第十三章 遺言・被工

第十四章 遺言・被工

第十五章 遺言・被工

第十六章 遺言・被工

第十七章 遺言・被工

第十八章 遺言・被工

第十九章 遺言・被工

第二十章 遺言・被工

第二十一章 遺言・被工

第二十二章 遺言・被工

第二十三章 遺言・被工

第二十四章 遺言・被工

第二十五章 遺言・被工

第二十六章 遺言・被工

第二十七章 遺言・被工

第二十八章 遺言・被工

第二十九章 遺言・被工

第三十章 遺言・被工

第三十一章 遺言・被工

第三十二章 遺言・被工

第三十三章 遺言・被工

第三十四章 遺言・被工

第三十五章 遺言・被工

第三十六章 遺言・被工

第三十七章 遺言・被工

第三十八章 遺言・被工

第三十九章 遺言・被工

第四十章 遺言・被工

取消又遺言ノ方式ニ依ラサル事外無レモノト爲シタルハ他ナシ素ト遺言カ要式行爲カルカ故ニ之ヲ取消スニモ亦同一義方式ニ從ハズタレハ不條理ナルヲ以テカリ且死者最終ノ意思トシテ發表シタル神聖ナル遺言ヲ取消ス行爲ハ之ヲ明確ニシ後日ノ紛争ヲ豫防キ必要アル以テナリ「或モ大抵ノ謂遺言ノ取消ハ遺言ノ方式ニ從フベキ」旨ノ意義ハ最初遺言ヲ爲シタル場合ト同一ノ方式ニ依ルヘシト云フセノニ非ス例ヘ最初遺言カ祕密證書ニ依リタルモハナムトキハ之ヲ取消ストモ若亦祕密證書ヲ以テヌヘシト云フニ非斯最初遺言カ祕密證書ニ依リテ成立シタル所トキニ於テ自筆證書又ハ公正證書ニ依リテ取消スコトヲ得ヘタ又祕密證書ニ依リテ取消ストモ其效力ニ至リテハ異ナムヨリアチナルナリ蓋ナセハニ至リテハイチ自由ニシテ又眞實本意ノ如クナシモ羅馬法以來數箇人遺言ヲ残スコトヲ得ヘシトキハ其全部消滅ニ及スル本利ノ如キハ之ニ倣ヒ若シ遺言ノ一部ヲ取消シタルトキハ其全部消滅ニ及スルモノト爲セルカ故ニ本法ニ於テ遺言ノ取消ノ可分ナル主義ヲ採用シ

タルコトヲ明示シタルモノニシテ遺言者ノ意思既ニ一部ニ限リ取消ストスルコト明確ナルニ拘ハラス此場合ニ其全部ヲ無効ト爲スノ理由アラオルヲ以テ遺言取消ノ可分主義ヲ採用シタル所以ナリ「遺言ノ取扱い」遺言ノ取扱いノ事項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行為ト抵觸スル場合ニ之ヲ準用ス舊民法財產取得編第四〇〇條第四〇一條ノ規定ハ遺言ノ取扱いノ事項ノ規定ハ遺言ノ外默示ノ取消アリテ其場合ハ本條及ヒ次條ニ規定セリ前後二節ノ抵觸シタル遺言アリテ後ノ遺言ニ於テ前ノ遺言ヲ取消ストスル言セシヲ相互ニ抵觸シタル場合ニ於テハ前後二節ノ遺言ニ如何ナル效果ヲ生スヘキヤノ問題生スヘシ例ハ前ノ遺言ニ於テ或不動産ヲ甲ニ與フベキ旨アリ又其後ノ遺言ニ依リテ遺言者ノ意思ノ變更アリタルモソマレハ前後遺言ノ抵觸

スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做スハ拘ニ
當然ナリ何トナレハ前ノ遺言ヲ取消スニ非サレハ後ノ遺言ヲ爲スコトヲ得サ
ルモノニシテ此ノ如キ場合ニ於テハ最終ノ意思ヲ重スヘキモソナレハナリ
遺言ト遺言後ニ於ケル遺言者ノ生前處分其他ノ法律行為ト相抵觸スルトキ例
へハ遺言ニ依リテ甲ニ與ヘタル不動産ヲ其後乙ニ譲與シ若クハ賣買シタルト
キ又ハ遺贈ノ目的タル不動産カ遺言ノ當時何等ノ物權ヲ負擔セサリシニ其後
ニ於テ遺言者カ之ニ地上權、永小作權ノ如キ物權ヲ設定シタル場合ニ於テモ前
後二箇ノ遺言ノ相互ニ抵觸スル場合ト同シタ遺言者ノ意思ハ後ノ行為ヲ以テ
前ノ遺言ヲ變更シタルヤ疑ナケレハ遺言後ノ行為ニ抵觸スル遺言ノ部分ハ同
シク取消サレタルモノト爲サアルヘカラナルカ故ニ本條第二項ノ規定ヲ設ケ
タルナリ

遺言者自身ニ遺言ニ抵觸シタル行為ヲ爲シタル場合ハ以上叙述スル如クナル
モ遺言者カ遺言ヲ爲シタル後ニ於テ遺言者ノ法定代理人親權者又ハ後見人カ
遺言ト抵觸スル行為ヲ爲シタルトキハ如何トノ問題生スヘケレトモ此問題ヲ

解決スルハ極メテ容易ナリ何トナレハ法定代理人ノ行為ハ法律上本人カ爲シ
タルト同一ノ效力ヲ有スルカ故ニ此場合ニ法定代理人カ爲シタル行為ハ本人
自身ニ爲シタルモノト視ルコトヲ得ヘキヲ以テ法定代理人ノ爲シタル行為ヲ
以テ本人ノ爲シタル遺言ヲ取消シタルモノト論セサルヘカラス

葡萄牙民法ニ依レハ二箇ノ遺言ノ前後ヲ知ルコト能ハサルトキハ孰レモ效力
ナキモノト規定セリト雖モ大抵日附其他ノ事項ニ依リ時ノ前後ヲ知ルコトヲ
得ヘキヲ以テ本法ニハ別ニ此ノ如キ場合ニ關スル規定ヲ設ケサル所以ナリ
○遺言ノ默示ノ取消(二)——第千百二十六條遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタル
トキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ
故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ舊民法財產取得編第三九九條
第四〇一條第二項

義ニ叙述シタルカ如ク遺言ハ遺言者ハ遺言者死亡ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セ
サルモノナルカ故ニ法律ハ其證據ニ重キヲ置キ遺言ト遺言書トハ殆ト同一ニ
シテ如何ナル場合ト雖モ遺言ハ必ス書面ニ依ルニ非サレハ成立セサルモノト

爲シ遺言書ハ遺言ヲ證明スル唯一ノ證據ナルニ拘ハラス遺言者自ラ之ヲ毀滅スルカ如キハ前ノ遺言ヲ存立セシメタル意思アルモノト看做スヘキハ當然ナルノミナラス若シ斯ル場合ニ於テモ遺言ノ有效ナルコトヲ認ムルノ結果ヲ生スルカ故ニ遺言者カ故意ニ於テ遺書ニ依ラサル遺言ヲ認ムルノ結果ヲ生スルカ故ニ遺言者カ故意ニ体ニ於テ遺書ニ依ラサル遺言ヲ認ムルノ結果ヲ生スルカ故ニ遺言者カ故意ニ遺言書ノ全部又ハ一部ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付ラハ遺言ヲ取消シタルモノト看做シタルナリ一遺言ヲ取消シタルモノト看做シタルナリ又遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ破毀滅失シタルトキモ亦遺言者カ遺贈ヲ爲スノ意思ヲ變更シタルモノト看做スハ當然ナリ例へハ遺言者カ或者ニ其所有ニ係ル貴重ナル書畫又ハ乘馬ヲ遺贈セント欲シ遺言書ヲ作リタル後遺言者自ラ其書畫ヲ破毀シ又ハ乘馬ヲ毀滅シタルトキノ如キハ遺言者ニ其書畫又ハ乘馬ヲ或者ニ與ヘサルコトト爲シタルニ非サレハ此ノ如キ事ヲ爲スコト能ハサルナリニシテ他ノ立法例カ之ヲ規定セサル所以ハ目的物ノ毀滅ハ即チ目的物ノ滅失遺贈ノ目的物ヲ遺言者カ故意ニ毀滅シタル場合ハ諸國ノ立法例中ニ見サル所

ニシテ遺言ノ效力ナキモノ謂フコトヲ得ベキカ故ニ特ニ之ヲ掲タルノ必要ナシトシタルニ由ルカラン殊ニ佛蘭西法系諸國ニ於テ此規定ヲ掲ケサルハ遺言ノ失效ノ場合ト取消ノ場合トヲ一括シテ規定セルカ故ニ理論上取消ト謂フコトヲ得サルモ其效力ナ生セヌト謂フコトヲ得ルヲ以テ遺言者自ラ之ヲ毀滅シタルトキハ故意ニ因ルト過失ニ因ルトア間ハス共ニ遺贈ノ目的物ヲ故意ニ毀滅スモノト認タルニ由ルカラン然レトモ遺言者カ遺贈ノ目的物ヲ故意ニ毀滅スルハ生前處分ヲ行ヒタルト異ナム所ナキヲ以テ意思ノ推測上條ノ規定ト同シク之ヲ取消ノ場合ニ置キタル所以ナリ遺言書ヲ過失ニ因リテ毀滅シタル茲ニ注意スヘキハ遺言者カ遺言書又ハ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルヲ以テ遺言書ヲ取消シタルモノト看做サルハ遺言者ノ行為カ故意ニ出タル場合ナラナルベカズ若シ遺言者カ過失ニ因リテ遺言書又ハ遺言ノ目的物ヲ毀滅シタルトキハ本條ノ適用ヲ受クルモノニ非ヌ依テ遺言書ヲ過失ニ因リテ毀滅シタル場合ニ於テハ總テノ證據方法ニ依リテ遺言ノ事實ヲ立證スルコトヲ得ヘシ然レトモ遺言者カ過失ニ因リテ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタル場合ハ遺言ノ目的物

存在セザルニ故ニ本條ノ適用ガ受ケザルモ其遺言ハ其效力ヲ失フヘキコトト
爲ルヘシモハ遺言ノ撤消式並ニ施リモ遺言ハ事実又立証スルモノトキモ此
〇遺言取消ハ效力ニ第千百二十七條前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言
ハ其取消ノ行爲カ取消サレ又ハ效力ヲ生セザルニ至リタルトキト雖モ其效
力ヲ回復セス但其行爲カ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラス(舊民法財
產取得編第四〇二條)

一旦取消サレタル遺言ハ其取消ヲ更ニ取消スニ因リテ其效力カ復活スルヤノ
疑問生スヘク此問題ニ付キ各國立法例ヲ大別スルトキハ復活主義ト非復活主
義トニアリテ佛蘭西法系諸國ノ法典ニ於テハ非復活主義ヲ採用シ埃及利民
法ニ於テハ前ノ遺言存在スルニ當リ後ノ遺言書ヲ毀滅シ又ハ其遺言ヲ取消シ
タルトキハ前ノ遺言復活スルモノト爲シ獨逸民法第二二五七條ハ復活主義ヲ
採用シタリ蓋シ遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ其效力ヲ生スルモノナレハ生前再
ヒ其取消ヲ取消シタルトキハ前ノ遺言カ其效力ヲ復活シ曾テ取消サレサリシ
狀態ニ在ルモノト爲スバ當然ナリト云フニ在ラン然レトモ遺言ノ取消ハ獨立

ノ法律行爲ナルカ故ニ直チニ其效力ヲ生シ前ノ遺言ハ最初ヨリ成立セナルモ
ノト看做サルニ拘ハラス更ニ後ノ遺言ヲ復活セシムルハ理論ノ抵觸ヲ免レ
サルノミナラス遺言者ノ意思ヲ考察スルモ多クノ場合ニ於テ取消行爲ニシテ
取消サレ又ハ效力ヲ生セザルモ前ノ遺言ヲシテ有效ナラシメント欲シタルモ
ノトハ看做シ難ク又多クノ場合ニ於テ遺言者カ前ノ遺言ヲ復活セシメント欲
シタルヤ否ヤニ付キ其意思不明ナルヘキカ故ニ專ロ遺言者カ前ノ遺言ヲ復活
セシメント欲スル場合ニ於テハ更ニ法定ノ方式ニ從ヒテ同一ノ遺言ヲ爲シ
ムルヲ正確ト爲スカ故ニ前ノ遺言カ明示ニテ取消サレタル場合ト默示ニテ取
消サレタル場合トヲ問ハス其取消ノ行爲カ更ニ取消サレ又ハ效力ヲ生セザル
ニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ復活セサルモノト爲シタルナリ然レトモ遺言
取消ノ行爲カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルモノナルトキハ取消スノ自由意思ナキ
モノナルカ故ニ之ニ因リテ遺言カ取消サレタルモノト爲スコト能ハス此ノ如
キ場合ニ於テ遺言者カ詐欺又ハ強迫ニ因リタル後ノ取消行爲ヲ取消シタルト
キ前ノ遺言カ無効ナリトゼンハ却テ遺言者ノ意思ナラナルヘシ何トナビハ前

ノ遺言ハ全ク遺言者ノ自由意思ニ出ナタルモノナルニ後ノ取消行為ハ其意思ニ非サルモノニシテ自己ノ意思ニ非サル行爲ニ因リテ其自由意思ノ貫徹ヲ妨害セラルルカ如キ奇怪ナル結果ヲ見ルヘケレハナリ是ヲ以テ但書ノ規定ヲ設ケタルナリ。此滅失ノ原因ニ依リテ本件ノ事由ニ就キ、自古以來、本件の如きは、
○遺言取消權、拋棄權、禁止權第千百二十八條、遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄前スルコトヲ得ス舊民法財產取得編第三十九條、遺言ハ固ド遺言者ノ死後ニ其效力ヲ生スルモノナレバ取りモ直ホナス人ノ自由ニ一部ノ生涯拋棄セシムルヨソニシテ公益ニ反スルカ故ニ本條ヲ設ケテ其取消權ヲ拋棄スルコトヲ得サル旨ヲ明示シタルナリ。又之に趣する餘り意思表示の如きは、本件の如きを以て當初公認せらるゝ事無く、
○受遺者カ遺贈ニ附著セル義務ヲ履行セサル場合ニ於ケル取消權第千百二十九條、負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔タル義務ヲ履行セサルトキハ相

續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得舊民法財產取得編第四〇三條)是マテ叙述シタル所ハ遺言者カ遺言ヲ取消スコトニ關スレトモ今茲ニ叙述スル所ハ遺言者以外ノ者即ち相續人カ遺言者セナリ。遺言者ニ付テハ當事者ノ一方カ其義務ヲ履行セサルトキハ他ノ一方ハ之ヲ解除スル権利ヲ有セリ而シテ負擔附ノ遺贈ハ契約ニハ非サレトモ其性質之ニ酷似スル所アリ且負擔附ノ遺贈ニ於テ受遺者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルニ拘ハラス其遺贈ヲ存立セシムルハ其意思ニ非サルヘシテ受遺者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ遺贈ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲シタリ然レトモ此場合ニ於テ遺言者ハ既ニ死亡シタル後ナルカ故ニ遺言者ニ取消權ヲ與フルコトヲ得ナルツイテ遺言者ノ權利義務ノ承繼人タル相續人ニ之カ權利ヲ與ヘタルナリ而シテ此場合ニ於テ受遺者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルヤ直チニ取消權ヲ生スルモノニ非ス受遺者カ其義務ヲ履行セサルトキハ契約當事者ノ一方カ其義務ノ履行ヲ怠リタルトキハ他ノ一方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其

履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行セサルトキ始メテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ル(第五四一條)ト同シテ先ツ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ受遺者カ其期間内ニ負擔義務ヲ履行セサルトキ始メテ遺言ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲セリ而シテ契約ノ解除及ヒ法律行為ノ取消ハ多クハ之カ權利ヲ有スル者ノ意思表示ヲ以テ足レント爲セドモ此場合ニ於ケル取消ハ裁判所ニ請求スヘキモノト爲セリ是レ他ナシ法律上重要視セラレタル遺言者ノ死後處分ヲ取消スモノナレハ果シテ取消サルヘキ條件ヲ具備スルヤ否ヤ裁判所ノ慎重ナル査定ヲ受クヘキモノト爲シタルナリ

第七章 遺留分

遺留分トハ相續ノ際被相續人カ相續人ノ爲メ法律上必ス遺留セサルヘカラサル財産ノ部分ヲ謂フモノニシテ此規定ハ何人ト雖モ自己ノ財産ハ自由ニ處分スルコトヲ得ト云フ原則ニ對スル例外タルナリ平素ニ在リテハ何人モ其財産ヲ制限ナク處分スルコトヲ得ヘケレントモ相續開始ニ先ツ或期間内ニ在リテハ其自由ハ制限セラレ被相續人ハ其相續人ニ對シテ必スヤ例ヘハ財産ノ二分之一三分ノ一ト云ヘルカ如ク其財産ヲ遺留セサルヘカラス而シテ此ノ如キ制度ハ民法實施前ニ在リテハ認メラレサリシカ故ニ品行不良ノ子若クハ養親ノ意ニ適セザル養子カ相續スル場合ニハ往往ニシテ唯俗ニ所謂名義上ノ家督相續ヲ爲シ毫モ財産ヲ讓受ケサリシコトアリント雖モ相續ヲ以テ相續人ノ權利カリト認メ殊ニ家族制度ヲ採用セル我邦ニ於テハ戸主ハ其家ヲ維持シ家族ヲ扶養スル義務ヲ認メタル以上ハ家督相續人ノ利益ノ爲メニ遺留分ノ規定ヲ設タルハ當然ナリ又遺產相續ノ場合ニ於テモ被相續人死亡スルヤ其近親カ窮迫ニ陥ラサランカ爲ミニ多少ノ遺留分ヲ認ムルノ必要アルヲ以テ本法ニ之ヲ認メタルナリ

今ヤ遺留分ニ關スル他立法上ノ主義ヲ略説スレハ古昔ノ日耳曼ニ於テハ財產ハ親族ノ共有ニ屬スルモノト認メ被相續人ノ自由ニ之ヲ處分スルコトヲ許サレサリシカ第十三世紀ノ頃ヨリ此原則漸ク衰へ今日ニ至リテハ獨逸法系諸國ニ於テモ亦多少自由處分ノ範圍ヲ認メタリ又佛法系諸國ノ法典ハ羅馬法ノ主義ニ依リ遺留分ヲ害セサル範圍内ニ於テ自由處分ヲ許シ英米ニ於テハ全然自由處分主義ヲ採用セリ而シテ遺留分ヲ認ムル法典ニ於テハ瑞西ノ或聯邦ヲ除クノ外尊屬親卑屬親及ヒ配偶者ノミニ遺留分ヲ與ヘ傍系親ニ遺留分ヲ與ヘスマ我邦ニ於テハ此等ノ諸邦ト異ナリ家族制沒行ハルカ故ニ直チニ外國ノ立法例ニ模倣スルコト能ハサルカ故ニ舊民法ト同シク我邦ニ適當ナルモノヲ設ケタルナリ

○家督相續ノ場合ニ於ケル遺留分ノ割合一千百三十條 法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ半額ヲ受ク

此他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ三分ノ一ヲ受ク(舊民法財產取得編第三八四條第一項)

遺留分ヲ受クル權利ノ割合各種ノ家督相續人皆同一ナラス法定ノ推定家督相續人タル直系卑屬ハ被相續人ノ財產ノ半額ヲ受ク其他ノ家督相續人ハ三分ノ一ヲ受タルモノト爲シタル面シノ家族制度ヲ採リ家督相續人ハ其家ヲ維持スヘキモノト爲シタル以上ハ孰シノ家督相續人モ同一ノ割合ノ遺留分ヲ受クルヲ以テ正當ナリトスキカ如シト雖モ家督相續ニ付キ法定ノ推定家督相續人タル直系卑屬ハ當然相續スヘキモノニシテ他ノ家督相續人ニ比スレハ最モ優等ノ地位ニ在リ且他ノ家督相續人カ相續ヲ爲スハ唯其權利ニ屬スルノミナレトモ法定ノ推定家督相續人タル直系卑屬ハ相續ハ其權利タルト同時ニ義務ニシテ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノ(第一〇二〇條)ナレバ之ヲ偶然家督相續人タルヘキ他ノ家督相續人ト區別シ多クノ利益ヲ與フルハ當然ナリ

舊民法財產取得編第三八四條ニ於テハ遺留分ノ權利ハ法定ノ推定家督相續人ノミニ之ヲ與ヘ其他ノ家督相續人ノ爲メニ之ヲ認メスト雖モ他ノ家督相續人モ法定ノ推定家督相續人ノ如ク家ヲ維持スル義務アリ且家族ニ對シ扶養ノ義務ヲ負擔スル以上ハ家ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テ遺留分ヲ與フヘキ

モノト爲スハ相當ナリトス卦ニテ心靈大ハ英國内ニ見テ遺産相繼人タル
○遺産相續ノ場合ニ於ケル遺留分ノ割合ニ第千百三十一條ハ遺産相續人タル
直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ半額ヲ受ク事ニ當ル
遺產相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ三分
ハーフ受ク(舊民法財產取得編第三八四條第二項)
是マテ叙述シタル所ハ家督相續ノ場合ニ於ケル遺留分ナレトモ義ニ略述シタ
ルカ如ク遺產相續ノ場合ニ於テモ法律ハ其相續人ニ遺留分ノ權利ヲ認メタリ
而シテ此場合ニ於テモ遺留分權利者ヲ二種ニ分ナタリ即チ其一ハ遺產相續人
タル直系卑屬ニシテ他ノ一ハ遺產相續人タル配偶者又ハ直系尊屬シテ前者ハ
遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ半額ヲ受ケ後者ハ遺留分トシテ被相續人ノ財
產ノ三分ノ一ヲ受クルコトト爲セリ遺留分トシテ被相續人ノ財
以上ノ如ク遺產相續人ノ種類ニ依リテ遺留分ノ割合ヲ異ニシタルハ他ナシ遺
產相續人タル直系卑屬ハ相續ニ付テハ當然ノ地位ニ在ルモノナルカ故ニ家督
相續ノ場合ニ於ケル遺留分ノ割合ト同シテ他ノ相續人ヨリ多クノ割合ヲ受ク

ルコトト爲シタレドモ他ノ相續人ハ偶然相續ニ付キ利益ヲ受クル者ナルヲ以
テナリマサ亦、財産ニ其價與セバ、其相繼人タル者ハ遺產相續人タルトキ之ニ遺留分ノ權利ヲ受ケシムルコトト爲シタリ之ニ反シテ他ノ遺
產相續人ハ被相續人ノ財產ニ倚リテ衣食アルコト多カルヘケレハ之ニ其權利
モ家ノ維持ニ關係ヲ有セザルカ故ニ唯家族カ其財產ヲ處分セシシテ死亡シタ
ル場合ニ限リテ戸主ニ其利益ヲ受ケシムルコトト爲シタリ之ニ反シテ他ノ遺
產相續人ハ被相續人ノ財產ニ倚リテ衣食アルコト多カルヘケレハ之ニ其權利
ヲ認メタルナラン且戸主ハ家督相續ヲ爲スニ當リ家督相續人トシテ遺留分ヲ
受ケタルモノナルヘケレハ其權利トシテ必要ナキ者ニ重テテ遺留分ヲ認ムル
ハ公平ヲ缺クヘキヲ以テナリ人情上文義ナキ者ハ其餘自ミ二條ヘテ更々此
遺產相續ニ付テハ同親等ニ直系卑屬又ハ直系尊屬數人アルトキハ義ニ叙述シ
タルカ如ク同時ニ同順位ニテ相續ヲ爲スカ故ニ遺產相續人タル直系卑屬數人
例ヘハ三人アリテ本條ノ規定ニ依リ遺留分ヲ受クルニベシ被相續人ノ財產ノ半

額ヲ此等三人ノ相續人各自三分ノ一ヲ受タルモノニシテ遺産相續人タル各直系卑屬ヲ被相續人ノ財產ノ半額ヲ受タルト云フ意ニ非ナルナリ若シ然ラサルモノトスルトキハ遺産相續人タル直系卑屬二人アラルトキハ各二分ノ一ヲ受タルコトヲ得ヘシト雖モ二人以上ナルトキハ其名自カ二分ノ一ヲ受タルコト上ハ道理上到底能ハズルナリ又直系卑屬數名カ同時ニ遺留分ヲ受タルトキ亦同シキナリ而シテ舊民法ニ於クハ遺産相續ノ場合ニ數人相續ヲ爲スミトヲ認メス一人相續主義財產取得編第三一四條第二九五條ヲ採リタルカ故ニ遺產相續人タル直系卑屬ハ一人ニテ被相續人人財產ノ半額ヨリ少キ割合ヲ以ク遺留分ヲ受タルコトカシ又佛國民法ニ於ク被相續人ノ數ニ應シテ自由處分ノ範圍ヲ減少セリト雖セ本法ニ於ク以上ノ如外被相續人ノ自由處分ノ範圍ヲ縮少セサルコトトテシタルナリ既テ遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於ク○遺留分ノ算定ニ第百三十三條、遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於ク有セシ財產ノ價額ニ其贈與シタル財產ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定スルベく財產人ヘ贈與財產ニ付テ原證セ文也、レ遺留分也

■條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於ク規定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ定ム又種類開設ノ相勸誘財人、暮サヘ賃貸人、貯蓄家督相續ノ特權ニ属スル權利ハ遺留分ヲ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セス(舊民法財產取得編第三八三條第三八五條第一項、第三八七條)二本ノ主義被相續人ノ財產ノ半額又ハ三分ノ一ヲ何程ナルカヲ知ル爲ゾニハ被相續人ノ財產ノ總額ヲ知ラサルヘカラヌ既テ遺留分ヲ算入セス時、遺留分ノ算定ニ付テハ二箇ノ主義ナリ其一ハ舊民法財產取得編第三八七條ノ如ク相續開始ノ時ニ現存スル財產ヲ價額其總財產ノ評價額ヨリ被相續人ノ債務額ヲ控除シタル剰餘額ヲ基礎トシ若シ遺贈ニシテ遺留分ヲ侵スヨリトアルトキハ之ヲ減殺セシムルニ止ムルモノ、他ノ一ハ外國多數ノ立法例ノ如ク被相續人カ生前爲シタル贈與ノ目的ノ價額ヲモ被相續人ノ總財產中ニ算入スルモノ是ナリ而シテ本法ハ此第二ノ主義ヲ採用シタル既テニシテ舊民法ノ如ク遺留分ヲ算定スルニ當リ被相續人ノ總財產中ニ其生前爲シタル贈與ノ目的物ノ價額ヲ算入セサルコトトテストキハ被相續人カ其相續人ヲ惡ミテ之ヲ遺留分

害セント欲セハ相續開始前ニ其財產ノ多分又ハ悉皆ヲ他ニ贈與シ以テ其目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ然レモ曩ニ叙述シタルカ如ク遺留分ハ公益上相續人ノ爲必要ト認メラレタル以上ハ其算定ニ付キ贈與ヲも算入スルヲ相當ナリトス但贈與ニ付テハ後ニ叙述スルカ如ク制限アリテ總テノ贈與ヲ悉ク算入スルモノニ非ス又彼相續人ノ財產ノ價額ヲ算定スルニ當リ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除スヘキハ當然ナリ若シ之ヲ控除セス單ニ被相續人ノ財產ノ價額ノミヲ基礎ト爲ストキハ遺留分ヲ受ケタル相續人ハ相續債權者ヨリ三分ノ一二相當スル債務ノ辨済ヲ請求セラルコトト爲リテ最初其受ケタル三分ノ一ノ遺留分ハ其實相續人ノ受クヘキ權利額ニ該當セサルコトト爲ルヘキカ故ニ先ツ債務ノ全額ヲ被相續人ノ財產ノ價額中ヨリ之ヲ控除シ而シテ殘餘ノ財產ニ付キ二分ノ一三分ノーフ定ムルコト爲ストキハ其額ハ即チ異ノ二分ノ一又ハ三分ノータルナリ今遺留分算定ニ付キ例ヲ舉ケン相續開始ノ時被相續人ノ有セル財產ノ價額四萬五千圓ニシテ此外相續開始三四箇月前知己某ニ萬五千圓ニ相當スル財產

ヲ贈與シ被相續人ノ債務全額ヲ二萬圓ニ假定スルトキハ家督相續ノ場合ニ於ケル法定ノ推定人督相續人タル直系卑屬又ハ遺產相續ノ場合ニ於ケル直系卑屬カ遺留分トシテ受クヘキ價額ハ二萬圓ト爲リ其他ノ相續人ノ受クヘキ價額ハ一萬三千三百三十三圓三分ノ一ト爲ル而シテ遺產相續ノ場合ニ於ケル直系卑屬二人アリトセンカ其各相續人ハ一萬圓ツツヲ受クヘク其他ノ遺產相續人ニシテ數人アルトキハ其數人ニテ一萬三千三百三十三圓三分ノーフ平等ニ分配スベキモノトス
遺留分ヲ算定スルニ當リ被相續人ノ財產中條件附權利又ハ存續期間不確定ナル權利アルトキハ之ヲ如何スヘキヤ此問題ニ付テハ此等ノ權利ヲ評價スル主義ト條件ノ到來若クハ期間ノ満了ノ時ニ至リテ計算ヲ爲スモノトノ二主義アリテ此第二ノ主義ハ獨逸民法第二千三百十三條ノ採ル所ニシテ理論上至當大リ之ニ反シテ第一ノ主義ハ法律關係ノ長タ確定セナル不便ヲ避ケ且債務者ノ無資力ト爲ルヘキ危險ヲ避ケルノ利アルカ故ニ多數ノ立法例ニ於テハ此第一ノ主義ヲ採用スルヲ以テ本法ニ於テモ之ニ模倣シ以上ノ如キ權利ハ裁判所ニ

於ヲ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ其價格ヲ定ムルコトト爲シタリ此主義ハ既ニ限定承認ヲ爲シタル相續人カ條件附相續債權者又ハ權利ノ不确定ナル相續債權者ニ辨濟ヲ爲ス場合ニ採用セラレタルモノナリ第一〇三一條第二項】家督相續ノ場合ニ於テ其特權ニ屬スヘキ權利即チ第九百八十七條ニ規定セル系譜祭具及ヒ墳墓ノ所有權ノ如キハ如何スヘキヤ此等ノ權利ハ家ヲ維持スル爲メ必要ナルヲ以テ相續人ノ財產中ニ算入セナルモノト爲シタリ遺留分〇遺留分ノ算定ニ付キ算入スヘキ贈與ノ範圍【第千百三十三條】贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限り前條ノ規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者双方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ遺留分ノ算入セナルモノト爲セリ而シ義ニ叙述シタルカ如ク被相續人ノ財產ノ價額ヲ算定スルニ當ツ被相續人カ相續開始前一年間ニ贈與シタル財產ノ價額ヲ其中ニ算入スルコトト爲シタリ佛國民法ニ於テハ贈與ノ目的タル財產ノ價額ハ之ヲ相續財產中ニ算入シ遺留分權權利者ハ受贈者ニ對シテ減殺ヲ請求スルコトヲ得ルモノトシ且何等ノ制限

ア設ケス之ニ反シテ獨逸民法第二三二五條ニ於テハ相續開始ノ時ヨリ十年前ニ爲シタル贈與ノ目的ノ價額ハ之ヲ相續財產ニ算入セナルモノト爲セリ而シテ英米ニ於テハ全ク贈與及ヒ遺贈人減殺ヲ許サヌ又ミヨリヒ及ヒグラウブジョンニ於テハ贈與ニ付テハ減殺ヲ許サナルヲ本則トシ唯故意ニ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルカ爲メニ爲シタル贈與ノミ例外トシテ認メサル主義ヲ採レリ今若シ獨逸民法ノ如ク相續開始ヨリ十年モ以前ニ爲シタル贈與ノ減殺ヲ許ストキハ受贈者及ヒ善意ノ第三者ハ不慮ノ損害ヲ被ルニト較少ナラナルヘク之ニ反シテ全ク贈與ノ減殺ヲ許サナルコトト爲ストキハ被相續人ハ多クハ遺贈ヲ爲サヌシテ贈與ヲ爲スコトト爲リ隨テ相續人ハ其利益ヲ害セラレ遺留分ヲ認メタル主義ニ反スルカ故ニ折衷主義ヲ採リ贈與ト雖モ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限り相續財產ニ算入スルヲ原則ト爲シ其以前ニ爲シタル贈與ハ其當事者雙方即ヒ贈與者及ヒ受贈者カ惡意ナルトキ即チ其贈與カ遺留分權利者ノ爲メ害ト爲ルモトヲ知リタル場合ヲ例外トシテ其贈與ヲ相續財產中ニ算入スルコトト爲シタル乎固ニ體ニ及ヒ謂與く目前ハ遺贈マ財產相繼中ニ就

以上ノ如ク相續開始前一年間ニ爲シタル贈與ノ目的ノ價額ヲ相續財產中ニ算入シ隨テ之カ減殺ヲ許ストモ贈與ハ無償ニシテ受贈者ハ唯利益ヲ受ケサルニ止マリ損害ヲ被ルヨド非サルナリ又相續開始ノ時ヨリ一年以上以前ノ贈與ト雖モ其當事者ニシテ惡意ナルトキハ之ヲ保護スル必要アラサルヲ以テ以上ノ如ク規定シタルナリニ過ニ非莫主導ヤ能セ凱興チ難ケ承認即放棄一章固ニ〇、遺贈及ヒ贈與ハ減殺ト第千百三十四條(遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留ニ分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得(舊民法財產取得編第三八六條、第三八九條))

遺留分ノ算定方ヲ以上叙述シタルカ如ク規定シ相續開始前一年間ニ爲シタル贈與及ヒ遺留分權利者ヲ害スルコトヲ知レル當事者間ニ於ケル其以前ノ贈與ノ目的ノ價額ヲ相續財產中ニ算入スルコト爲シタル以上ハ被相續人カ其自由處分ノ範圍ヲ脱シ遺留分ヲ侵シテ贈與又ハ遺贈ヲ爲シタル場合ニ於テ相續人ノ遺留分ノ權利ヲ保全スル途ナカルヘカラス若シ此ノ如キ場合ニ於テ相續人ヨリ受贈者及ヒ受遺者ニ對シテ贈與及ヒ遺贈ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得セ果)

テ爲シタル權利行爲ハ維令委任者カ之ヲ知ラサルトキト雖セ取消スコトヲ得且委任者カ返還ノ義務ヲ負フモノナリ又取消ハ破產財團ニ屬スヘキモノノ返還ヲ目的トニ止マルヲ以テ相手方カ權利行爲ノ結果トシテ破產者ニ給付シタル目的物カ破產財團ニ現在シ若クハ該財團ノ利得ニ歸シタルトキハ相手方ハ破產債權者團體ニ對シ現物ノ返還若クハ利得ノ償還ヲ請求スルコトヲ得何トナレハ該請求ハ財團債權ノ一種ナレハナリ其他相手方ハ民法ノ規定ニ從ヒ該請求權ヲ破產債權者團體ニ對スル債務ト相殺スルコトヲ得ヘシ(取消ノ效果)更に同上文ニ記載セラス

相手方ノ承繼人ニ對スル取消權ノ效力ニ關シテハ法律上別ニ規定ナシト雖モ相續人ハ被相續人ト同一程度ノ責任ヲ負フ隨テ相續人ハ縱令善意ナリト雖モ被相續人ニシテ惡意ナル以上ハ取消ヲ排斥スルコトヲ得サルハ相續ノ法則上當然ニシテ又特定ノ承繼人ハ自己ニ對シ第一ノ取得者ニ對スルヨリ嚴格ニ取消ヲ主張セラルルコトナキノ制限内ニ於テ第一ノ取得者ト同一程度ノ責任ヲ負フ隨テ第一ノ取得者カ善意ナルトキハ縱令自己カ惡意ナリト雖モ取消ヲ排

斥スルコトヲ得ルコトハ前述ノ法則ニ依リ瞭然タリ
 (B) 日附ノ如何ヲ問ハス債權者ニ損害ヲ被ラシムル目的ヲ以テ爲シタル權利行爲ハ相手方
 行爲ニ債務者カ債權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタル權利行爲ハ相手方
 カ情ヲ知リタルトキニ限リ之ヲ取消スコトヲ得(第九九六條民法第四二四條獨
 逸破産法第三一條瑞西破産法第二八八條是レ廢能訴權ノ原則ノ適用ニ外ナラ
 ス隨テ斯ル行爲ハ日附ノ如何ヲ問ハス又相手方カ破産債權者タバト第三者タ
 ルトヲ問ハス之ヲ取消スコトヲ得ヘシ

(a) 要件廢能訴權ノ原則ノ適用ナルヲ以テ取消スコトヲ得ヘキ行爲タルニ
 ハ第一、ニ、債務者ノ詐害意思ヲ要件トス債權者ニ損害ヲ加フルノ意思即テ詐害
 意思ニ於テ爲シタル權利行爲タルニハ行爲者カ其行爲ニ債權者ニ對シ其債權
 ニ對スル辨済ノ可能ヲ奪フコトヲ認識スルヲ以テ足レリト
 爾セ蓋シ行爲者カ其行爲ノ結果トシテ當然債權者ニ損害ヲ加フルニ至バコト
 フ認識シタル事實ハ行爲カ詐害行爲タル旨ノ證明ノ材料ト爲ルニ止マレハナ

リ債務者カ特定ノ債權者ヲ他ノ債權者ヨリ特別ニ利益セシメント欲スルノ意
 想ハ債權者ニ損害ヲ加フルノ意思ト同視スヘキモノニ非ス此二者ノ意思ハ併
 存スルコトアルヤ當然ナリ取消サルヘキ行爲カ破産者ノ代理人ニ依リテ爲サ
 レタル場合ニ於テハ債權者ヲ詐害スル意思ノ存否ハ代理人ニ付キ之ヲ定ム但
 代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒテ特定ノ行爲ヲ爲シタルトキハ詐害ノ意思ノ存否否
 ハ被代理人タル破産者本人ニ付キ之ヲ定ム民法第一〇一條獨逸民法第一六六
 條第二ニ相手方カ其情ヲ知リタルトキヲ要件トス相手方カ行爲ノ成立ノ當時
 ニ於テ債務者ニ詐害意思ノ存スルコトヲ知リタル以上ハ其取得行爲ノ直接才
 ルト相手方カ破産財團ニ屬スヘキ債務者ノ特定財產ヲ取得シタルト間接ナル
 ド債務者ノ財產上ノ損害ニ於テノ利益ヲ取得シタルトヲ問ハサルナリ但相手
 方カ行爲ノ完成後ニ至リ始メテ其情ヲ知リタル場合ニ於テハ該要件ヲ缺クヲ
 以テ其行爲ヲ取消スコトヲ得ス相手方ニシテ若シ行爲成立ノ當時情ヲ知ルニ
 ラナルコトカ其過失ニ原因スルトキハ情ヲ知リタルコトト同視スルヲ正當ト

シ又取消サルヘキ行為カ相手方ノ代理人ニ依リ爲サレタルトキハ前述ノ法則ニ基キテ情ヲ知リタルヤ否ヤノ事實ヲ定ム民法第一〇一條相手方ノ一般承繼人ニ對シテハ何等ノ制限ヲ受クルコトナクシテ取消權ヲ主張スルコトヲ得レトモ其特定承繼人ニ對シテハ其權利取得ノ際ニ債務者ニ詐害ノ意思ノ存シタル旨ヲ知リタルコトヲ要ス其理由ハ前述シタル所ト同一ナレハ茲ニ之ヲ省略ス第三ニ債權者カ實害ヲ受ケタルコトヲ要件トス取消サルヘキ行為ニ因リテ破産財團カ破産債權者ニ完済スルニ不十分ト爲リタルトキハ勿論從前ノ有様ニ比シ尙ホ一層不十分ト爲リ將來不十分ト爲ル處アリ若クハ不十分ト爲ルコトナシト雖モ外國所在ノ財產ヲ換價セサルヲ得サルニ至リタルカ如キ完済ヲ受クルニ困難ナル事情ヲ發生シタルトキハ債權者ノ實害ヲ受ケタルノ結果ヲ生シタリト謂フコトヲ得ヘシ以上三要件ヲ具ヘサル行為ハ之ヲ取消スコトヲ得ス蓋シ債權者ニ實害ヲ被ラシメサルニモ拘ハラス取消ヲ許スハ徒ニ手續ヲ煩雜ナラシムルニ止マリ何等ノ實益ナク又債務者カ詐害ノ意思ヲ有シ相手方カ之ヲ知ル場合ニ非スンハ法律上認容スルヲ得サル不法行為ナルモノナケレ

ハナリ法律ハ取消サルヘキ權利行為ニ付キ何等ノ列記例示若クハ限定ヲ爲サルヲ以テ法理ニ依リ之ヲ明カニセサルヲ得ス權利行為ナルカ故ニ契約ノ如キ法律行為ノミナラス請求ノ拋棄ノ如キ訴訟行為亦取消スコトヲ爲ル(尙ホ民事訴訟法第四八三條参考)又獨リ積極的行爲ノミナラス消極的行爲即チ債務者カ自己ノ資產ニ屬スヘキ財產ヲ維持シ又ハ債務ヲ免ルルカ爲ミニ爲スヘキ意思表示ヲ爲サス若クハ手續ヲ盡ササル不行爲亦取消スコトヲ得時效ノ完成妨タルカ爲ミニ中斷ノ手續ヲ盡ササルノ類然レトモ未タ自己ノ資產ノ一部分ヲ成ササル財產ヲ取得セサル不行爲ハ取消ヲ許サス蓋シ取消ノ目的ハ債務者ノ資產ヨリ離脱シタル財產ヲ再ヒ資產中ニ入ルルニ在ルヲ以テ未タ資產ニ屬セサルモノハ之ヲ如何トモ爲スコト能ハサレハナリ故ニ債務者ニ對シ贈與ヲ受ク(前述ノ説明参考或ハ會社ノ理事ノ如キ多數ノ報酬ヲ受クヘキ職務ニ就クコトヲ強フルヲ得ス相續ノ拋棄ニ關シテハ法理上爭アリ羅馬法ニ於テハ相續ノ承認ヲ專屬的権利ノ行使ト認メタルヲ以テ相續財產ハ承認ニ依ルニ非スンハ相續人ノ資產ニ屬セス隨テ相續ノ拋棄ハ財產ヲ取得セサル不行爲ナルヲ以

ヲ取消ノ目的ト爲ラサリシ佛蘭西民法第七八八條ハ全ク之ニ反シ被相續人ハ相續ノ開始ニ因リ法律上當然被相續人ノ財產ニ付キ權利ヲ取得スルモノニシテ相續ノ承認ハ相續財產取得ノ行爲ニ非スシテ確認ノ行爲タルニ過キス以テ相續ノ拒絕ハ債務者タル相續人ノ資產ニ影響ヲ及ホスヘキ不行爲トシテ取消ノ目的ト爲ル我民法第九八六條ニ於テ亦然ラン(前述ノ説明参考)取消スヘキ行爲ハ虛偽ノ行爲ニ非スシテ當事者間ニ於テ真實ニ成立シタル行為ナリ何トナレハ前者ハ法律上當然無効ナルヲ以テ之ヲ取消スノ必要ナケレハナリ是ヲ以テ賣買ヲ假設シテ成立シタル贈與ニ關シテム取消ノ目的ハ賣買ニ非スシテ贈與タリ

(b) 取消ノ效果 取消權者、取消ノ方法及ヒ取消ノ目的ハ前述シタル所ニ同シ故ニ之ヲ省略ス(A)ノ(b)参考

(三) 登記ノ無效 破産宣告以前ニ於テ破産財團ニ屬スル債務者ノ財產上ニ有效ニ取得シタル抵當權、不動產質權等ノ如キ第三者ニ對抗スルニ登記ヲ要件ト爲ス權利ニ關シテハ其登記ヲ破産宣告以後ニ於テ爲スコトヲ得ス蓋シ登記ハ

當事者間ニ於テハ一ノ權利確認ニシテ且破産宣告以後ノ登記ハ破産的清算ノ基本ヲ亂ルヲ以テ債務者ノ其財產ニ對スル管理及ヒ處分權喪失ノ結果トシテ之ヲ爲スヲ得タルノミカラス債權者ヲシテ速ニ登記ヲ爲ナシメ以テ債務者カ故ラニ之ヲ遲延シ支拂停止ノ狀態ニ於ケル嫌疑ヲ彌縫セントスルノ弊害ヲ防止スルニ在リ(第九九二條).....破産宣告ノ日マテ.....[佛蘭西商法第四四八條第一項]白耳義商法第四四七條伊太利商法第七一〇條、埃太利破産法第一二條等然レトモ破産宣告以後ニ於テ破産者ノ取得シタル財產上ニ既ニ成立シアル權利(例ヘハ相續財產上ニ設定シアル未登記ノ抵當權ノ類)ハ破産宣告以後ト雖モ尙ホ有效ニ登記スルコトヲ得シ何トナレハ不當利得ヲ許サツル原則ノ適用トシテ破産債權者ハ破産者ノ取得シタル財產ニ付キ其負擔ヲ除外シタル部分ハ非スンハ破産財團トシテ配當ノ用ニ供スルコトヲ得サレハナリ獨逸破産法ハ權利ノ取得若クハ消滅ニ付キ土地臺帳若クハ船籍簿ニ登記スルニ非スンハ其效力ヲ生セナル物權(獨逸民法第八七三條第八七五條第一二六〇條ニ關シテハ破産者カ其相手方タル權利者ニ對シ民法第八百七十三條、第八百七十五條、第千

二百六十條ニ基キテ爲シタル意思表示ノ破産宣告ニ因リテ破産債権者團體ニ對シ無効ト爲ラス但該意思表示カ破産者ノ爲メニ驅束力ヲ有シ(民法第八七三條第二項第一二六〇條且登記ノ申立カ破産手續開始以前ニ登記所ニ爲シタル場合ニ限ル旨ヲ規定シタリ(民法第八七八條隨テ斯ル申立ニ基キ爲シタル登記ニ因リテ取得シタル物權ハ破産債権者ニ對シ效力ヲ有ス登記カ破産手續開始以後ニ於テ爲シタル場合亦該效力ヲ發生スルヲ妨ケヌ(猶逃破産法第一五條第二項)但後上記登記ノ時期ヨリ十五日ヲ超過シタル支拂停止以後エ破産宣告以前ニ於テハ債務者カ未タ財產ノ管理及ヒ處分權ヲ喪失セサルヲ以テ支拂停止以後破産宣告以前ニ於ケル登記ハ有效タルコトヲ原則トス然レトモ法律ハ例外トシテ權利取得ノ時期ヨリ十五日ヲ超過シタル支拂停止以後エ於ケル登記ヲ無効ト爲シタリ(佛蘭西商法等ハ無効ト爲サスシテ之ヲ取得シ得ヘキモノト爲シタリ我商法第九百九十二條ハ「……トキニ限リ」と登記ヲ爲スコトヲ得ト規定シタルヲ以テ反對推理上之ニ反スル登記ハ無効ナリト論決セサルヲ得ス)是レ破産ノ運命ヲ免ルルコトヲ得サル旨ヲ豫知シタル債務者ハ其

財產上ニ設定シタル質權抵當權等ノ登記ニ依リ財產的地位ノ不如意ナル事實ヲ公衆ニ表白シ爲メニ社會ノ信用ヲ失フコトヲ恐レ債権者ニ乞ヒテ故ラニ登記ヲ遲延シ信用ヲ維持シ取引ヲ繼續シ以テ一時ノ彌縫策ヲ試ミタルモ其目的ヲ達セサルヨリ前ニ登記遲延ノ求ヲ認容シタル債権者ニ破産手續開始ノ旨ヲ豫知セシメ以テ登記ヲ爲シタルト同時ニ爾後取引ヲ爲シタル債権者ヲ詐害シ大ニ取引ノ安全ヲ妨害スルニ至ルノ害毒ヲ防止スルノ目的ニ由テタルノミナラスル求ニ應シタル債権者ニ對シ其怠慢若シハ共謀ノ責罰トシテ登記ニ必要ナル時間即チ取得後十五日内ニ爲ササリシ登記ヲ無効トシテ破産債権者團體ニ對シタル效力ナキコト宛モ無登記ノ抵當權等カ第三者ニ對シ無効ナルト同一ノ實ヲ得セシタル法意ナリ(佛蘭西商法第四四八條第一項白耳義商法第四四七條伊太利商法第七一〇條佛蘭西商法第四百四十八條第二項及ヒ第三項ハ唯リ支拂停止後十五日ヲ經過シタル登記ノミナラス支拂停止前十日内ノ登記ヲモ仍ホ取消スコトヲ得ヘキモノト規定シタリ我商法ノ支拂停止後ニシタル登記ノミニ付キ無効ナル旨ヲ規定シタルニ過ギス且相手方カ其支拂停止

ヲ知リタルコトヲ要件ト爲ナス立法上ノ見解トシテ佛蘭西商法ト同一ノ規定
ヲ爲スヲ正當ト信ス蓋シ債務者ノ支拂停止前僅少ノ日數ヲ出ヌタル登記ハ嫌
疑ノ存スヘキモノナレハナリ^{法規}此を證す文書第廿十日
債務者ノ支拂停止後ニシテ且權利取得ノ時過十五日ヲ過キテ爲シタル登記
ハ破産債權者團體ニ對シテ無效タリ(相對的無效故ニ斯ル登記アルニ過キタル
物權ハ破産債權者團體ニ對シ其效力ヲ全ウスルコトヲ得ス又登記ノ無效ハ該
團體ノ利益ノ爲メニ存スルヲ以テ管財人ノミカ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノ
タリ其他本節一ノ(B)ヲ參考スヘシ^{法規}此を證す文書第廿一
本節ヲ講了スルニ際シ一言注意スヘキモノハ如何ナル時期ヨリ如何ナル時期
ニ至ルマテ本節ノ無效及ヒ取消ヲ主張スルコトヲ得ルモノ問題是ナリ獨逸破
產法第四「修撫太利破產法千八百八十四年三月十六日法律第二十七號」ハ破產
宣告以後一箇年間ヲ以テ取消權行使ノ期間ト定メ我商法及ヒ佛蘭西商法等ハ
別ニ明文ヲ以テ之ヲ定メカリシ商法第九百九十九條第九百九十一條第九百九
二條及ヒ第九百九十六條等ハ既往ニ關スル破產宣告の效力ニ關スル規定トシ

第三節 破產宣告ノ涉外的效力

ヲ破產ノ宣告ヲ豫想スルカ故ニ破產宣告ノ時期ヨリ無效又ハ取消ヲ主張スル
コトヲ得ヘク又無効及ヒ取消ハ破產債權者團體ノ利益ノ爲メニ存スルモノナ
ルヲ以テ破產手續終局以後ハ之ヲ主張スルコトヲ得スト謂フヘシ蓋シ破產債
權者團體ハ破產手續終局以後ニ存セサレハナリ^{法規}此を證す文書第廿二
三

裁判権ニ關スル問題、法規ノ適用ニ關スル問題、當事者ノ國籍ニ關スル問題、破産宣告ノ涉外的效力、即チ裁判権ニ關スル問題ヲ説明スルモノタリ。本節ノ破産宣告ノ涉外的效力ハ、破産宣告ノ涉外的效力ニ關シテハ、屬地破産主義及ヒ普及破産主義ノ二者アリ。第一、屬地破産主義ハ甲國ノ破産カ其效力ヲ乙國ニ及ホサナル旨ヲ主張スル主義タリ。此主義ハ破産者カ有スル數國ニ散在セル財產ノ破産的差押ヲ爲スニハ、各財產所在ノ裁判所ニ於テ破産宣告ヲ爲スヲ要スルノ結果ヲ生ス故ニ學者ハ、該主義ニ多數破産主義ノ別名ヲ附シタリ。其論據ノ(1)ハ破産ハ一ノ強制執行ナリ故ニ破産ノ宣告ハ内國ノ執行力司法權ノ作用ヲ及フ區域内ニ於テ其效力ヲ及ホスノミ蓋シ、獨立國ノ主權ハ唯一オリ、主權即チ領土ヲ支配スル權力ハ其性質上他ノ權力ヲ排斥シ同一領土ノ内ニ他國ノ權力ノ行ハルヲ認メス又二様ノ權力ノ同時ニ行ハルヲ許サレハナリ。雖テ内國ノ破産宣告ハ其效力ヲ、外國ニ及ホスコトヲ得ス。但甲國及ヒ乙國カ國際條約若クハ法律ヲ以テ一國ニ於テ許サレタル執行力殊ニ破産カ其效力ヲ他國ニ及ホス旨ヲ規定スルコトヲ。

得ヘシ然レトモ這ハ國家ノ權力ノ當然行ハル範圍外ニ於ケル執行權ノ擴張ニシテ特別ナル法律的作用ヲ必要トシ執行權ノ當然ノ效力ニ非サルナリ(2)ハ、外國裁判所ノ爲シタル破産ノ宣告ハ、縱令其形式カ判決ナル場合ト雖モ唯支拂ノ停止若クハ支拂ノ不能ヲ證明シタルモノニ外ナラス故ニ該證明ハ外國ノ破産宣告カ内國ニ其效力ヲ有スル原因ト爲ラスシテ却テ内國ニ於テモ亦破産ノ宣告ヲ爲ササルヘカラサルノ原因ト爲ル。其他外國裁判所ノ爲シタル破産ノ宣告ハ、縱令其形式カ判決ナル場合ト雖モ私法的關係ノ確定力ヲ有スルモノニ非ス故ニ執行判決ニ依リ内國ニ於テ其效力ヲ及ホスコトヲ得ス(民事訴訟法第五百四條ニ於ケル判決ニ非ス)。雖テ外國ニ於テ開始シタル破産ニ於ケル管財人ハ其破産ニ基キ内國所在ノ債務者ノ財產ヲ破産財團トシテ引渡スヘキ旨ヲ求ムルノ權利ヲ有セス(3)ハ破産法ハ取引ノ安全及ヒ其信用ヲ保護スルコトヲ目的ト爲ス故ニ公ノ秩序ニ關スル法規タルノ性質ヲ有ス。隨テ國籍ノ如何ヲ問ハス荷モ破産制度ヲ認メタル國內ニ於テ取引ヲ爲シタル者ニシテ支拂ヲ停止シタル以上ハ其國法ノ下ニ於テ破産ノ宣告ヲ受タルヲ當然トス而シテ公ノ秩序

ヲ保ツ目的ハ其領域内ニ止マルヲ以テ自國ノ破産宣告カ他國ニ對シ其效力ヲ及ボスコトヲ得サルヤ當然ナリ其他破産法ハ債権者ノ利益ノ爲メニ其共同擔保タル財產ノ喪失ヲ保全シ平等ノ配當ヲ監視スルコトヲ主タル目的トス故ニ破産法ノ直接ノ目的ハ破産者ノ資產ニ關係ヲ有シ破産宣告ノ效果トシテ發生スル破産者ノ無能力ノ如キハ從タル目的トシテ存在スルニ過キス隨テ破産法ハ財產法ニシテ無能力ハ唯破産ノ宣告ヲ爲シタル國內ニ存在セル財產ニ付キ關係ヲ有スルノミ國外所在ノ財產ハ破産者ノ自由ニ處分スルヲ得ル所ナリ而シテ財產法ハ國家主權ノ不可分の觀念ヨリシテ權利者ノ國籍ノ内外ヲ問ハス自國內ノ總財產ヲ支配スルヲ通則トス故ニ破産事件ニ關シテハ財產所在地ノ國法タル破産法カ行ハレ同時ニ自國內ニ於ケル外國裁判所ノ破産宣告ノ伸張ヲ認メス(法例第一〇條第一項等参考)(佛蘭西ノ「リオンカニ氏」ハ破産法ハ破産者ノ財產ト之ニ關係ヲ有ス債権及ヒ其分配方法ヲ規定スルコトヲ目的トセス却テ債權者間ノ平等ヲ保テ利益ヲ保護スルコトヲ目的トス故ニ財產法ト謂フヘカラスト駁證シタリ)第二、普及破産主義ハ債務者ノ住所地ニ於テ開始セラレ

タル破産宣告ハ其效力ヲ獨リ住所所在國內ニ於ケルノミナラス國外即チ外國ニ對シテモ亦當然及ホシ其所在財產ヲ吸収シテ一ノ破産財團ヲ成ス旨ヲ主張スル主義タリ此主義ハ債務者ニ對スル唯一ノ破産宣告ヲ以テ數國ニ散在セル財產ヲ各破産債權者ニ配當スルノ結果ヲ生スルヲ以テ學者ハ之ニ唯一破産主義ノ別名ヲ附シタリ此主義ハ近世ニ於テ伊、獨佛ノ學者ノ主張スル所ニシテ其原因ハ蓋シ支拂ノ能力ナキ債務者ノ財產ヲ其總債權者ニ平等ニ配當スヘキ破產手續ノ目的ヲ達スルカ爲メニハ一國ノ法律ニ依ルコトヲ要ス財產所在地ニ行ハルル數國ノ法律カ破産財團ノ配當ニ適用セラルモノトセハ破產手續ニ煩雜ヲ來シ債務者ハ甲國ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタルモ未タ乙國ニ於テ之ヲ受ケタルヲ奇貨トシ乙國所在ノ財產ヲ處分シ破產手續ノ目的ヲ達スルノ妨害ヲ爲スニ至ルトノ思想ニ基ケリ其論據ノ(1)ハ破産ハ不可分ナリ唯一ナリ破産者ノ資產ハ唯一ナリ故ニ其分配ヲ目的ト爲ス破産亦唯一ナラナルヘカラス破產ハ破産者ノ唯一ノ資產ニ付キ總破産債權者ニ平等的滿足ヲ得セシムルモノナルヲ以テ之ヲ分割スルコトヲ得ス破産者カ數國ニ跨リテ數多ノ財產ヲ有シ

又數多ノ債務ヲ負フコトアリト雖モ此等ノ財產的關係ハ破産者ノ生活ノ中心タル住所ニ湊合セサルヘカラス隨テ該住所地管轄ノ裁判所カ爲シタル破産ノ宣告ハ各國ニ於テ之ヲ是認シ其效果ヲ其所在財產上ニ及ホサシヌアルヘカラス然ラスンハ性質上唯一ノ資產ヲシテ財產所在地ノ異ナルニ從ヒ死モ數多アルカ如クニ取扱フノ論理ニ反スルノ結果ヲ生ス殊ニ破産ハ主トシテ破産債權者間ニ平等ヲ維持スルコトヲ目的トス故ニ損失モ亦總債權者間ニ平等ニ分配セサルヘカラス平等ノ分擔ハ異ナリタル國家主權ノ爲ミニ横斷セラルヘキモノニ非ス該論據ハ國家ノ權力ヲ無視シタルモノナルヲ以テ採ルニ難シ⁽²⁾ハ破産ハ裁判ニ因リテ確認セラレタル事實ナリ故ニ各國ハ破産ヲ事實トシテ是認セサルヘカラス其他破産ハ確定裁判ノ效力トシテ如何ナル處ニ於テモ有效ナラナルヘカラス該論據ハ何レモ其當ヲ得ス破産手續ノ開始ハ單純ナル事實ノ確認ニ非シテ却テ鋭敏ナル強制ノ效力ヲ生ス又破産宣告ハ當事者ノ係争關係ニ付キ裁判ヲ爲スモノニ非ナルヲ以テ當事者ノ私法的法律關係ニ付キ確定裁判ノ效力ヲ生セス⁽³⁾ハ破産宣告ノ普及的性質ヲ是認セハ裁判ノ抵觸ヲ防止

○簡易訴訟手續ト通常訴訟手續證書訴訟又ハ爲替訴訟ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ於テ通常訴訟ニ變更スルコトヲ得ルカ換言スレハ第二審ニ於ケル口頭辯論ノ未タ終結セサル前ニ於テハ控訴人ハ被控訴人ノ承諾ナクシテ通常訴訟手續ニ變スルコトヲ得ルヤ否ナニ付キ大阪控訴院カ積極ニ裁断セラレタルヲ大審院ハ之ヲ破駁シテ曰ク民事訴訟法第四百八十八條ニ於テ證書訴訟若クハ爲替訴訟ノ原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セシシテ通常ノ手續ニテ訴訟ヲ繫属セシムテ證書訴訟若クハ爲替訴訟ヲ止ムルヲ得ヘキコトヲ規定シタルハ要スルニ原告ハ起訴ノ時ニ於テハ通常手續ニ依ルト特別手續ニ依ルトノ自由アルヲ以テ第一審ニ繫屬中ハ特別手續ヲ變更シテ通常手續トスルモ甚シク被告ノ權利ヲ害スル恐ナキカ故ニ外ナラス故ニ此規定ヲ擴充シテ第二審ニ繫屬シタル證書訴訟若クハ爲替訴訟ニ適用スルコト能ハサルヤ誠ニ明ナリト(大審院明治三十五年(大)第五百二十九號判決)

○再抗告理由及び決定原本ト判事ノ署名捺印
ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタル場合ニ於テ再抗告ハ新
訴訟法第四百五十六條第三項ニ明記セリ所ナル事如何ナル場合ニ於テ新ナル獨
立ノ抗告理由ヲ生スルカ之學者間ニ多少説明ノ異オル也ノアルヲ見ル所ナリ
之ニ關シ大審院ハ二箇ノ場合ニ限リ再抗告ノ理由ヲ生スルモノト認メ説明シ
テ曰ク「新ナル獨立ノ抗告理由ハ抗告裁判所ノ裁判力前審ハ裁判ト主文上ニ差
異アリシタルカ又ハ抗告裁判所カ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルトキニ限リ
生スルモノハ第一抗告理由云々云々如ク若ニ原審ニ於ケル本件ノ審問ニ關
與シタル判事辯護者原決定イ評決テ加ハラズ原決定ハ四名ノ判事ニテ之ヲ
爲シタルモノナラン乎原院ハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルモノナルカ故ニ
其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノト云ヒ得キモ原決定書
ヲ閱スルニ他四名ノ判事ノ署名捺印アリテ同決定ハ五名ノ判事ヲ以テ適法
印セス裁判長判事鈴木伍三郎トノ附記アリテ同決定ハ出張中ニ付署名捺
印セラレタル裁判所カ爲シタルモノナルコトヲ明認シ得ルニ因リ原院ハ
ニ構成セラレタル裁判所カ爲シタルモノナルコトヲ明認シ得ルニ因リ原院ハ

重要ナル訴訟手續ニ違背シタルモノニアラス而シテ夫ノ民事訴訟法第二百三
十七條ノ規定ヲ決定ニ準用スヘカラサルハ實ニ抗告人所輸ノ如シト雖モ同様
ノ規定ニシテ決定ニ準用セラレナル以上ハ決定原本ニハ決定ヲ爲シタル判事
署名捺印スヘキ旨ノ規定他ニ存セサルヲ以テ該原本ニハ必ラスシニ決定ヲ爲
シタル判事ノ署名捺印ヲ要スルモノニアラス其決定書中ノ記載若クハ之ニ關
スル審問調書又ハ其他ノ事由ニ因リ定數ノ判事カ適法ノ手續ヲ履行シ之ヲ爲
シタル事實又明確ナラシメアルヲ以テ足ルモノトスト（大審院明治三十五年ノ第
三十五年十二月二日第一民事部決定明）

○抗告裁判所ノ裁判ノ意義 民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂抗告
裁判所ノ裁判トハ抗告裁判所トシテ裁判シタル總テノ裁判ヲ謂フカ將タ抗告
事件ノ本體ノ裁判ノミヲ指スカニ付キ大審院ハ後說ヲ採リ説明シテ曰ク「民事
訴訟法第一百四十七條及商法施行條例第二十五條ニ依リ破産宣告申立事件ノ再
抗告ニ關シ準用スヘキモノナリ而シテ本項ニ所謂抗告裁判所ノ裁判トハ抗告
事件ノ本體ノ裁判ヲ謂フモメニシテ破産宣告申立ノ抗告事件ニ付ク之ヲ云々

ハ破産ノ宣告ヲ爲スカ又ハ其申立ヲ却下スル裁判ヲ謂フモノニシテ單ニ前審ノ決定ヲ廢棄シ破産宣告ノ裁判ヲ同審ニ委任スル裁判ノ如キハ本タ本體ノ裁判ト謂フコトヲ得ス從テ如此裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非スト
謂ハナルヲ得スト(大審院明治三十五年(ク第百三十三十七號破産事件ノ決定ニ對)
○證言拒絶事件ノ抗告當事者 他人ノ間ニ權利拘束ト爲レル事件ニ付キ證人トシテ召喚セラシタルニ其證人ハ其本訴ノ利害關係人ナルコトヲ理由トシテ證書ヲ拒ミタルヲ第一審ニ於テハ之ヲ是認シ第二審ハ其決定ヲ廢棄シタル場合ニ於テ本訴ノ當事者ヨリ再抗告ニ及ヒタルニ大審院ハ之ヲ不適法トシテ曰ク(凡ソ證言拒絶ニ付テノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スヘキ者ハ其證言拒絶ノ當否ニ付利害ノ關係ヲ有スル者即チ證言拒絶事件ノ當事者タラナルヘカラス而シテ該事件ノ當事者タルヘキ者ハ證人喚問ヲ申請シタル者及ヒ證人トシテ指名セラレタル者タラナルヘカラス又證言拒絶ヲ不當ナリトスル決定ニ對シ抗告ヲ爲スヘキ者ハ證人トシテ指名セラレタル者タラナルヘカラス)スト(大審院明治三十五年(ク第百三十八號證言拒絶事件ノ決定ニ對スル抗告)事件明治三十五年十二月十六日第一民事部決定)

○高等科校外生募集廣告

高等科講義錄第二號目次 (一月十二日發行)

- 天皇ニ付テノ推問其他憲法典ニ就テノ質疑應答 法學士 藤島義一
- 隔地者間ニ於ケル意思表示ニ關スル推問
- 私法ニ關スル學說ノ評論、我民法ト獨逸民法トノ點葉上ノ差異 法學士 鈴木英太郎
- 民法ト民事訴訟法トノ關係ニ付テノ講演
- 商業登記及ヒ商號ニ付テノ講演並ニ推問 法學士 楠本蒸治
- 營業ノ稅及ヒ商賈帳簿ニ付テノ推問 法學士 梅本蒸治
- 財政稅率ニ付テノ講演
- 會計圖及ヒ其他ニ付テノ推問 法學士 鈴木英太郎
- 法務界ニ付テノ講演 法學士 田中遼太郎
- 證據ニ付テノ講演 法學士 藤島義一
- 證據ニ付テノ講演 法學士 岩島章通
- 伊藤ノ資格ニ關スル講演
- 羅馬法(自二)直至二八頁 法學士 秋山雅之介
- 羅馬法(自二)直至二八頁 法學士 田中遼太郎
- 羅馬法(自二)直至二八頁 法學士 田中遼太郎

○最近所要講題

◎高等科講義錄 每月二回發行月謝金四十錢

三十六年一月

和佛法律學校

ハ破産ノ宣告ヲ爲スカ又ハ其申立ヲ却下スル裁判ヲ謂フモノニシテ單ニ前審ノ決定ヲ廢棄シ破産宣告ノ裁判ヲ同審ニ委任スル裁判ノ如キハ本タ本體ノ裁判ト謂フコトヲ得ス從テ如此裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非スト
謂ハナルヲ得スト(大審院明治三十五年(ク第三百三十七號)破産事件ノ民事部決定ニ對)
○證言拒絶事件ノ抗告當事者
他人ノ間ニ權利拘束ト爲レル事件ニ付キ證人トシテ召喚セラシタルニ其證人ハ其本訴ノ利害關係人ナルコトヲ理由トシテ證書ヲ拒ミタルヲ第一審ニ於テハ之ヲ是認シ第二審ハ其決定ヲ廢棄シタル場合ニ於テ本訴ノ當事者ヨリ再抗告ニ及ヒタルニ大審院ハ之ヲ不適法トシテ曰ク凡ソ證言拒絶ニ付テノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スヘキ者ハ其證言拒絶ノ當否ニ付利害ノ關係ヲ有スル者即チ證言拒絶事件ノ當事者タラサルヘカラス而シテ該事件ノ當事者タルヘキ者ハ證人喚問ヲ申請シタル者及ヒ證人トシテ指名セラレタル者タラサルヘカラス又證言拒絶ヲ不當ナリトスル決定ニ對シ抗告ヲ爲スヘキ者ハ證人トシテ指名セラレタル者タラサルヘカラスト(大審院明治三十五年(ク第三百二十八號)證言拒絶事件ノ決定ニ對スル抗告)
事件明治三十五年十二月十六日第一審民事部決定)

○高等科校外生募集廣告

高等科講義錄第二號目次 (一月十二日發行)

- 天皇ニ付テノ推問其他憲法典ニ就テノ質疑應答..... 法學士 副島 義一
- 隔地者間ニ於ケル意思表示ニ關スル推問..... 法學博士 梅 錄次郎
- 私法ニ關スル學說ノ評論、我民法ト獨逸民法トノ編纂上ノ差異..... 法學士 鈴木 英太郎
- 民法ト民事訴訟法トノ關係ニ付テノ講演..... 法學士 鈴木 英太郎
- 商業登記及ヒ商號ニ付テノ講演..... 法學士 松 本 淳治
- 營業ノ讓渡及ヒ商業帳簿ニ付テノ推問..... 法學士 松 本 淳治
- 謀故殺罪ニ付テノ講演..... 法學博士 國田 朝太郎
- 脅迫國及ヒ其他ニ付テノ推問..... 法學博士 國田 朝太郎
- 法刑罪ニ付テノ講演..... 法學士 副島 義一
- 證據ニ關スル質疑應答並ニ推問及ヒ豫審ニ關スル講演..... 法學士 豊島 車通
- 伊摩ノ資格ニ關スル講演..... 法學士 秋山 雅之介
- 羅馬法(自二二頁至二八頁)..... 法學博士 田 中 達

報

○最近刊行要籍

◎高等科講義錄 每月二回發行月謝金四十錢
○入學志願者ハ此際至急申込マルルヲ可トス

三十六年一月

和佛法律學校

法學志林

第四十號

每月一回十五日發行
校友、准校友外生三種り
一番翁價銀共金九錢
十番翁金銀共金八十一錢

明治三十六年二月十六日印刷
(定價金貳拾五錢)

明治三十六年二月十七日發行

○最近判例批評其六 法學博士 梅謙次郎
○法律行為ノ原因(續) 法學博士 関根參太郎
○時勢ト經濟學 法學博士 金井延

東京市牛込區牛込北町十番地
發行者

萩原敬之

印 刷 者

東京市牛込區牛込北町三番地

印 刷 者

小宮山信好

印 刷 者

金子活版所

印 刷 者

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

纂論 ○取引所(續)
寄書 ○清國司法制度改革私議
批評 ○疑義一東 校友 小林里平
○社員以外ノ合名會此業務執行員會社員ノ規定
○實業、社會權、保護陪償權、法學士 志田友吉
○地租ノ許可ヲ得シテ爲シタル行當、法學士 岩田達一郎
○百二十條、法學士 岩田達一郎
○鐵道及ヒ郵便ノ行政法上ノ實質 法學士 清水澄
○毎日ナ異ニシテ宣稱ヲ爲シタル場合於ケン認
○争闘ノ動向、秋山雅之介 法學士 中山成太郎
○般當州科ノ賃費々地上權ノ地代ニ及ス影響
○判例、雜報、記事 數十件

其他

發行所

和佛法律學校

電話番町百七十四番

(明治二十二年十二月九日 内務省許可)

(明治三十五年十一月四日第三種被許可。毎月二十回間三日五日六日八日十日十二日
十三日十五日十六日十八日二十日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行)